

2602

項事越繰リヨ年前

今期是事紀之巻入、努力ヲケス
 工員、主任部長、長行ノテ改善実行、等々
 此令
 〇 経営ノ一歩ヲ確立スル
 〇 高島、増益ノ等々
 自分
 〇 身体、強健、努力スル

昭和十七年 七曜一覽

		S	M	T	W	T	F	S			S	M	T	W	T	F	S															
		日	月	火	水	木	金	土			日	月	火	水	木	金	土															
JAN.	一月	...	4	(5)	6	7	(8)	9	10	(11)	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
FEB.	二月	1	2	3	4	(5)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29		
MAR.	三月	1	2	3	4	5	(6)	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
APR.	四月	...	5	6	7	8	9	(10)	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
MAY	五月	...	3	4	5	6	7	8	9	(10)	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
JUNE	六月	...	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
JULY	七月	...	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
AUG.	八月	...	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
SEPT.	九月	...	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30					
OCT.	十月	...	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
NOV.	十一月	...	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
DEC.	十二月	...	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				

太字は祝祭日を示す

重なりて島の長さや初日の出

緑 瑠



整備部ノ改善

重 要 記 事

昭 和 十 七 年 要 記

前年同様工事及び、実施漁地

所感

日 八 月 一

曜 木

時 事

氣天

豫

暖寒

記

牙一日大至臣我

軍事差之討え詔書奉戴奉日

高下止起休大長ノ可クヤン御山マ他ノ何

日布止之切と此日一日詔書奉戴日ノ年此れ

ノ後ケ下ニ日分、追書ノ尋強之聖旨、ソノカケ

下リ語ん

此之増立即比其ノ研長強カ者ナリ、亦如

大田、幸安御決ニ高クシムル 本おカモトトコナリ

コウあり

是ヤリ未始日布ス

年此ニ百年ノ事ノ御定合ノ又えカキイノ事

本、懸案ヲせん、ニリナリ、一ハカクムコトハ御事ガカコ

ニ全我如要ナルハ、杭ノ道ヲ治ん 尋平治ん

所感

日 七 月 一

曜 木

時 事

氣天

豫

暖寒

記

曇り

定例公此請言却不徳高物此ニシテ

左向ノ事合々々々号レリ、二夜日定コナリ

昨年果ノ事考繕ヤリ借合、亦ノ生治ニ因ケル

借合ノ区ス右ノ合此ノ事ノ区繕ヲ高カクイリ

ニ事而勿物ノ事ト御ケリ、コト事達ニ先カリ

持ノ候治ス、コト事達ニ先カリ

中此可ク御事合此借合ニ出リ繕備スル

トシ高差カク治事、亦、右、幸安、治及、ノ任命

ス、コト事達ニ先カリ、高カク

石ノん

一月九日

豫記	氣天
豫	晴
記	暖

言上等迄係是初に諸立印...
あつた、表に葉をかき...
枕掛け...
十日...
...
...
...

一月十日

豫記	氣天
豫	晴
記	暖

言中等迄係是初に諸立印...
あつた、表に葉をかき...
枕掛け...
十日...
...
...
...

下 午後三時五分

所感...
...
...
...

...
...
...

時事

一日

一月十一日

所感

天晴 寒 豫 記

豫 記

七つ迄に在るに上りて進んで山登り
 十番手汗定まるに在るに其の
 如くは、此の山登りにて
 十分の力をこめて
 せよ、也。此の山登りにて
 十分の力をこめて
 せよ、也。此の山登りにて
 十分の力をこめて
 せよ、也。

時事

一月二十日

所感

天晴 寒 豫 記

豫 記

此の山登りにて十分の力をこめて
 せよ、也。此の山登りにて十分の力をこめて
 せよ、也。此の山登りにて十分の力をこめて
 せよ、也。此の山登りにて十分の力をこめて
 せよ、也。

時事

木曜

一月十五日

所感

天気

晴

寒暖

豫

記

右の如くおとれりし時より左ノフムモ、か
 痛しやんぬりたりノルモ、高松位下日カサ
 今更らイシカロ、いろ自ケラ、
 八分久更カラモ、お上り位リ、下

時事

金曜

一月十六日

所感

天気

晴

寒暖

豫

記

昨日より多し、高松位下日カサ、
 夕方布衣、不境、
 一、
 散る要、
 身中、

日出 六時五十分

日没 四時五十一分

時事

曜

日七十月一

所感

氣天

晴

豫

暖寒

記

明日の午は丁酉の日の曜が明ん下じき午の
 十時廿分を過ぎと五分午は口は七時五分が最高で
 十時一色に白くする
 辛辛片波若く晴る
 孔大身希十の一人夜迄切せりうまう及
 可新始、紳使交、夜初、可高而ううする
 長、古仙見弄、らん
 夕月おお、下り煙マセうたう中とに可、佳分
 号、
 夕月おお、下り煙マセうたう中とに可、佳分
 号、

時事

日

日八十月一

所感

氣天

晴

豫

暖寒

記

終日三十分の寒 五分位
 夕月おお、下り煙マセうたう中とに可、佳分
 号、

上州 前三時四十二分

時事 曜日 一月十九日
 所感 晴 暖寒 記 晴寒
 昨日フルーツを食ぶなり。お菓子の下敷きも
 困った。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 下敷き。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 した。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 リンゴを食べた。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 のま。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 清平と木村とまの。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 上を。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 つく。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と

時事 曜日 一月二十日
 所感 晴 暖寒 記 晴寒
 朝つる。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 とお菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 たお菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 辛。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と
 依。お菓子の電話をいり。匠石の夜来と

大寒 前一時二十四分

所感	日 一 十 二 月 一				臘 水	時 事
	豫				氣天	以
記				時寒		
<p>於九夜 夜九夜 日中の方夜去位 七割合米たつた 島安博 金郎 豊作</p>						

所感	日 二 十 二 月 一				臘 木	時 事
	豫				氣天	曇抄
記				暖寒		
<p>翻又九夜二命ニ至。昨日血液検査を 持てりし長成の子の長を不良と思つて 居たのた方医者の来りし午久とを 以て布施えん入院す。中々 石子の梅の一輪は、めん花の咲り長 島か何れか印をえん下 佐米 同 星路 一 三の事</p>						

上弦 後三時三十五分

所感

日四十二月一 曜土

時事

氣天
豫記
三十九度五分
一〇〇
候 水候 候 九回

所感

日三十二月一 曜金

時事

氣天
豫記
三十九度二分
九六
候 水候 候 九回

本日の入院は、この頃迄は、市販の洗剤
自給、車やレフト、立、見、夕、時、初、の、ケ、ラ、ト
今、か、再、多、進、う、な、か、知、う、ト、不、安、な、ま、ま、と
ノ、ケ、ラ、ト、デ、ア、ア、カ
東、山、志、より
ふと見ると空は、危惧する

所感

日六十二月一

曜月

時事

氣天
豫記
熱 三九度春
聊 九二
候 上田水候

所感

日五十二月一

曜日

時事

氣天
豫記
熱 三九度春
脈 九八
候 二十回

所感	日八十二月一					水曜	時事
						天候	豫記
							熱 三十九度一分 秋 九六 候 三四

所感	日七十二月一					火曜	時事
						天候	豫記
							熱 三十九度一分 秋 九六 候 九四
							今日下の肩は暖め熱を以て二分 肩は暖め来る。

所感	日九十二月一				曜木	時事
	録記		気天		暖寒	
	候	九	四	候	九	四
	<p>家内も三十九度以上熱いありて 午がス決定し同じ室に入院</p>					

所感	日十三月一				曜金	時事
	録記		気天		暖寒	
	候	九	十	候	九	十
	<p>家内も三十九度以上熱いありて 午がス決定し同じ室に入院</p>					

限りのきりやくし共渡かな
 甚しきも半座をゆけ孤夫のな

拍手の大きな音の梅の花

霞村



重要記事

所感

日一十三月一

曜

時事

気天

豫記

暖寒

熱三十九度二分
風九
降二度

日出 六時四十二分 日没 五時八分 ○滿月 後六時十二分

所感	日	一	月	二	曜日	時事
	氣天 豫記 暖寒					氣天 豫記 暖寒
熱 三十八度九分 肌 九下 便 三四回						

所感	日	二	月	二	曜月	時事
	氣天 豫記 暖寒					氣天 豫記 暖寒
熱 三十八度二分 肌 九下 便 三四回						

立春 後七時四十九分

所感	日 四 月 二				臨水	時事
					氣天	豫記
				候 卯 九 十	暖寒	
				野口 柳 法 見 舞		
				以來 訪 可		

所感	日 三 月 二				臨火	時事
					氣天	豫記
				候 卯 八 六	暖寒	
				石 施 金 工 郎 孫 法 見 舞		
				リニ工 載		

滿洲國高等師範校長(萬壽節)

所感	日 六 月 二			金 曜	時 事
	靑 三十八度五分 瓜 九六 後 有			氣天 豫 記	暖寒

所感	日 五 月 二			木 曜	時 事
	靑 三十八度二分 瓜 九十 後 二田			氣天 豫 記	暖寒

感寒夜はも飛立ッ鷺の左のも一子

下弦 後十一時五十三分

所感

日 八 月 二

曜 日

時事

氣天

豫記

暖寒

靚 三十七度五分

肌 九四

浚 四回

曜 日

日 七 月 二

時事

氣天

豫記

暖寒

靚 三十七度九分

肌 八四

浚 二回

初午

所感	日 十 月 二				曜火	時事
	<p>便 瓜 執 二 百 三 十 八 分</p>				<p>氣天 豫 記 暖寒</p>	

所感	日 九 月 二				曜月	時事
	<p>便 瓜 執 三 十 七 分</p>				<p>氣天 豫 記 暖寒</p>	

所感	日 一 十 月 二				圖木	時事
	<p>熱 三十七度五分 瓜 八三 便 二田</p>				<p>氣天 豫記 暖寒</p>	<p>航空時代江渡江一英様代理 見舞 草物と戴く</p>

所感	日 二 十 月 二				圖木	時事
	<p>熱 三十七度五分 瓜 八三 便 二田</p>				<p>氣天 豫記 暖寒</p>	<p>満山浪連工業所鶴飼良行様 お見舞い 結果て下上よ。 お花とハハハ</p>

時 事 曜 土 二 月 十 四 日 所 感

豫 記 氣 天 暖 寒
 平 靴 一 日 月
 脈 八 八
 便 三 回
 流 動 食

日本滑空機工業組合一同 法見舞
 船 碇 兄 見 之 水 乙 卯 日 載 入

時 事 曜 金 二 月 十 三 日 所 感

豫 記 氣 天 暖 寒
 靴 三 十 七 度
 脈 八 三
 便 二 回

...

日出 六時二十九分 日没 五時三十二分 陰曆元日 ●新月 後七時二分

時事

氣天 暖寒

豫記

平熱 二日目

肌 七二

便 二回

所感

二月十五日

佐藤様 此見舞 以卯を戴く

時事

氣天 暖寒

豫記

平熱 三日目

肌 八七

便 一回

初め 一合練

所感

二月十六日

カウソゴロイロヤカイモトサロウ
カウソゴロイロヤカイモトサロウ
カウソゴロイロヤカイモトサロウ

氣天 晴
 豫 記
 熱 平熱 四日
 肌 七五
 便 一回
 おまじり三分
 寒

宇賀様 来訪可
 音武様 来訪す
 恵美子 和子 病院 に来る
 知子 元氣 回復 先生 へ
 見て 喜ばる 田舎 常 あり

氣天 晴
 豫 記
 熱 平熱 五日
 肌 六八
 便 一回
 お交り 三分

昭南島 入場式
 音武様 来訪す
 恵美子 和子 病院 に来る
 知子 元氣 回復 先生 へ
 見て 喜ばる 田舎 常 あり

英屋は 活きても
 昭南島 生まれ 今日 祭り かな
 活きても

雨水 三時四十七分

所感	日九十月二	曜木	時事
腹空らす			氣天 晴
潜上者や			暖寒 融
國の虫			記
			平熱 六日
			脈 七六
			交り 三六

今日は豊作と其のお友達？りが
見舞にまゐて下さつた。
大に叔母様も喜ん。
とてもおなかすいて困よ。

所感	日十二月二	曜金	時事
腹空らす			氣天 晴
潜上者や			暖寒 融
國の虫			記
			平熱 七日目
			脈 七六
			交り 三六

船柄の叔母様見えらわゆる。
大にの叔母様 西瓜糖を下さる。
（生まつて初めて
固い様）

今日は唯か来る時や
やん

天気晴天
寒 酷寒

熱三十六度八分

脈八〇

腹平

おもしろい

大いなる叔母杯飲をたたくへ持て
来て下をさした

泉しめや合長りくのもちうま
来ぬは呼ひをき親心

天気晴天
寒 小春日

熱三十六度八分

脈八〇

腹平

おもしろい

隣室の女をともらりく、
主と子供あやで散りゆく、心やは
たぐい編片の煙のすえそ日岸た
仁三郎徳治和子算来て
取めて嬉しかる
伊藤三吉杯来を

五時 熱
小窓の外はあけそぬぬ

時 事

曜 月

日 三 十 二 月 二

所 感

氣 天

晴

暖 小 春 日 杳

豫 記

規 三 六 度 五 分

朔 七 二

檢 査 第 一 回

はつさき

見上ヤ一室カ

床を足す

あさき

思ふよ程。中々

ふりあひ

検便

今時せよ

おろそか

心せよ

法蓮心報謝の

魂一舌を

れも検り

虫耐産の

心よ

東海全果、日暮、さゆ、母、異言、成平、人、

あかし、玉子、世ノ

今も如ノテヒシメ、有る夜、ア、ア、ア、ア、ア、

ま、一回、三、三、一回、進、夜、店、ア、ア、ア、ア、

か、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

時 事

曜 火

日 四 十 二 月 二

所 感

氣 天

雨

時 寒

豫 記

規 三 六 度 五 分

朔 七 八

検 査 第 一 回

七あこび

健康帰る

志区哉

十の吹、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、

多様型、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

午後、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

天候晴
暖寒

豫記

執三丁六夜

瓢七八

後才面控後

尾腸後滴出

と毛甚しん

昨夜午降、續イロ雪、名詞、ナク情

シヤ、ヤ、ヤ、音ノ如クホス

抽ノテ、露、台、ノ、上、ニ、立、テ、中、マ、ラ、ス、石

身、二、面、控、便、ノ、面、ナ、大、便、リ、然、レ、テ、十、分、可、ヨク、地、ノ、タ、カ、ム、不

イ、ケ、テ、腕、痛、ミ、サ、ナ、度、リ、ス、リ、シ、テ、ガ、出、ナ、イ、カ、カ、先

カ、カ、急、ウ、チ、ノ、身、ノ、一、テ、フ、ヒ、コ、者、不、着、夜、中、カ、サ、テ

引、キ、テ、是、レ、ヲ、ハ、眼、ヲ、苦、シ、知、地、中、一、時、百、年、十、二、時、終、ニ

書、込、白、出、便、ノ、為、ハ、時、ヲ、止、ム

大難、登、レ、後、眼、急、ク、熱、也、也、

移、リ、モ、ヤ、カ、カ、急、ウ、チ、ノ、身、ノ、一、テ、フ、ヒ、コ、者、不、着、夜、中、カ、サ、テ

天候晴
暖寒

豫記

執三丁六夜

瓢七八

後才面控後

と毛甚しん

昨夜十時、降、雪、止、午、迄、ヨク、晴、ル、今、迄、ヒ、ヤ、ク、

夜、二、三、時、頃、迄、風、多、ク、カ、サ、テ、シ、テ、今、迄、ヒ、ヤ、ク、

九、時、ノ、カ、サ、テ、

引、キ、テ、是、レ、ヲ、ハ、眼、ヲ、苦、シ、知、地、中、一、時、百、年、十、二、時、終、ニ

引、キ、テ、是、レ、ヲ、ハ、眼、ヲ、苦、シ、知、地、中、一、時、百、年、十、二、時、終、ニ

夕、方、迄、便、通、テ、心、死、ト、シ、ル

十、分、可、ヨク、

我、カ、首、ノ、面、ノ、先、先、顔、側、カ、急、ウ、チ、ノ、身、ノ、一、テ、フ、ヒ、コ、者、不、着、夜、中、カ、サ、テ

汗、カ、急、ウ、チ、ノ、身、ノ、一、テ、フ、ヒ、コ、者、不、着、夜、中、カ、サ、テ

時事

金 曜

二月二十七日

所感

雨天
雨の雲
暖寒

豫記

熱三十六度五分
脈七
経流腸
普通経

〜とくと 春雨は〜 夜もすかし

甚とやと降る〜 午後五時木下と来ると〜 雨の降る、運送のり〜 雨の降る、運送のり〜

仁〜 夜もすかし〜 仁〜 夜もすかし〜

午後二時年ウスリ〜 午後二時年ウスリ〜

不為程〜 かんちやう後口 快ふと

今〇おまら立ノ中〜 今〇おまら立ノ中〜

立〜 立〜

おまら立ノ中〜 油ありき 窓外ノ景 大ろくさ

時事

土 曜

二月二十八日

所感

晴天
暖寒

豫記

熱三十六度八分
脈八
経並通経一回

多し〜 結果

冬枯〜 百重羽。 大坂

百重羽 正作見たり 大坂

れ七時〜 大坂、オハカ〜 れ七時〜 大坂、オハカ〜

ふよ〜 七三〜 後〜 後〜

為〜 百重〜 耳〜 耳〜

アイト〜 耳〜 耳〜

〜 耳〜 耳〜

一仕事

〜

〜

〜



日輪の低く漏し草を摘む
龍子

重要記事

遺院の、新巻第一

次ハ、活動、行ふ心構へ、つゆと

Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading.

時事

曜日

三月一日

所感

天候
晴
暖寒

豫記

秋
三十八、九分

肌
ハ

得
善道洋一画

Handwritten notes in vertical columns, including the characters '有社也' and '善金佛は'.

滿洲國建國紀念日

日出 六時十三分

日没 五時三十分

所得 五時三十分

所感	日	二月	三	曜月	時事
					天気
					晴
					豫記
					三十一日 考八分
					肌十回
					浮善通一四
					水鳥や
					時感かふ
					つとぬかふ
					大袖を
					すきてあゝあゝ
					先かこる
					重化ツカケ使リ時ロキヤ々へ御用件性意著ト指示
					令ノ紳乙平、物信件云ツラン、幸甚正ニ可成不
					おれら事
					おん事
					おん事
					おん事

所感	日	三月	三	曜火	時事
					天気
					雨
					豫記
					肌十回
					浮善通一四
					水鳥や
					時感かふ
					つとぬかふ
					大袖を
					すきてあゝあゝ
					先かこる
					重化ツカケ使リ時ロキヤ々へ御用件性意著ト指示
					令ノ紳乙平、物信件云ツラン、幸甚正ニ可成不
					おれら事
					おん事
					おん事
					おん事

又洗比、信若、仁、心、通院、着物ト等、時々人々方より、破レカケ整理ヲ経ル

離祭 ○前月 前九時三十分 乙卯 夕アス、午後念地老寂、諸定論、云々云々

睦暇 3,5

時 事		日 四 月 三		所 感	
天候	晴	豫	記	天候	晴
<p>昨夜十二時の暴中候、控附ヲ入一吋強ク晴リ明日 晴ニテカ三寸半迄トク明レ夕、六分弱露布リ起リ夕 十時分迄多ク揚リ起キル、丹前中ニミテ帯トハカ 夕持是レ、梅妻、初合テ暹院ハ明カ下決定ス 仁トク子ノ袖衣類ノ由帯ヲ急ムルニテ夕ノ後 ト一ツニ持テ揚リ多ク是レ夕明カ暹院ハワケテ早御 少所ノ手後見本備テスデマ一有テ宛テ今日 候ノ旨ニテ一當者ニ見テ候作ス早免ト全一 仰向候テカ全カ明カト申レ候カト今日中カ 全カアテリテ一列テ、先ノ全テ今日倍々申レ 明カトテ今日全テ一列テ、先ノ全テ今日倍々申レ 明カトテ今日全テ一列テ、先ノ全テ今日倍々申レ</p>					

68

時 事		日 五 月 三		所 感	
天候	曇	豫	記	天候	曇
<p>昨夜十二時の暴中候、控附ヲ入一吋強ク晴リ明日 晴ニテカ三寸半迄トク明レ夕、六分弱露布リ起リ夕 十時分迄多ク揚リ起キル、丹前中ニミテ帯トハカ 夕持是レ、梅妻、初合テ暹院ハ明カ下決定ス 仁トク子ノ袖衣類ノ由帯ヲ急ムルニテ夕ノ後 ト一ツニ持テ揚リ多ク是レ夕明カ暹院ハワケテ早御 少所ノ手後見本備テスデマ一有テ宛テ今日 候ノ旨ニテ一當者ニ見テ候作ス早免ト全一 仰向候テカ全カ明カト申レ候カト今日中カ 全カアテリテ一列テ、先ノ全テ今日倍々申レ 明カトテ今日全テ一列テ、先ノ全テ今日倍々申レ</p>					

69

下ノキミトカ候ニ人取テ候一ツワレサアア

嗚呼 3.5

所感	日	四	月	三	臘水	時事
					氣天	晴
					豫	記
昨夜十二時迄書し候、後時ヲテ人一時中、時ノ一ノ日、 融シタガ三ノ甲迄ユク明レタ、六ノ尋常ノ起リテ 廿五分迄ノ多ク起キ、井中ニミテ事トハカマ 々時差ト、指差、故合テ退院ニ付テ決定ス 仁トク事ノ細衣敷ト由事ヲ忘ルヘテ、 ト一ノ時ニ持テ、是レ其ノ退院ニ付テ、 少作人キ候見事、情事ニ付テ、 候ノ旨トシテ、皆者ニ見テ、 仲立候々、カキテ、 全カテ、 以テ、						

嗚呼 3.30

一所感
 下ノキミトハ候ニ人、
 下ノキミトハ候ニ人、
 下ノキミトハ候ニ人、
 下ノキミトハ候ニ人、

三月五。 退院の
 忘れぬ。 退院の
 忘れぬ。 退院の
 忘れぬ。 退院の
 忘れぬ。 退院の
 忘れぬ。 退院の

あふのか
 名勝情
 みるか
 みるか
 みるか
 みるか
 みるか

川	水	自	自	自	自	自
川	水	自	自	自	自	自
川	水	自	自	自	自	自

地 久 部 曆 豊 後 二 時 十 分

煙氏 六

所 感	日 六 月 三		時 事	
	金 庫		天 氣	
...	
	
...	
	
...	
	
...	
	
...	
	
...	
	

今 休 帰 呼 略 久 江 帰 二 相

煙氏 三

所 感	日 七 月 三		時 事	
	土 曜		天 氣	
...	
	
...	
	
...	
	
...	
	
...	
	
...	
	
...	
	

...

...

今頃分、夜更に起
 暗しに水はたも七熱ク
 夜更に水はたも七熱ク
 今頃分、夜更に起
 暗しに水はたも七熱ク

歳久原竹万葉
 及之ノ先ニシテ
 今頃分、夜更に起
 暗しに水はたも七熱ク

今頃は
 帰るまで
 暗くも
 久々
 紅梅が
 帰るまで
 今頃は
 淋しき下月
 区院
 窓側を掃く
 寝台の味
 見るこの物の
 笑顔で迎へる
 妻の痛めて
 二杯あはれの
 音こたえ

追ふらん
 神佛
 なつかしむ
 存つかり
 床のつよ
 瓦割
 走ら加へ
 山竹
 花みかな

歳久原竹万葉

立ノ先ニ申クニ

古の公死に金下り

十四夜

カレノホウイノホウ

イロミイモノアタ

上成ニ対スル物

こゝに及対事

イカサハ

カノコト

夜敷

諸君

諸君ノ御覧ニ

各回
通

祝
吾

夜
君

4,5

所感	日 十 月 三			時 事
	臘 火			
	豫	記	天 氣 雨 曇り	時 事 じやハ知 服 南 印 全 土 無 修 伴 降 伏 昨夜の夜中ヨリ晴レテ夜更に大霧ト成リテ後夜中ハ何処迄も 目 大 霧 下 ノ 不 透 云 ハ 眩 云 事 九時迄ハ公地ノ草未ニ病没ニシテ下ノ不 透 云 見、クレイガエタ ンゲニ切ラト砂糖少ニ匹洗迄ニ分増ス自前ヨリ銅 ニソ置シセシヤニ十二時迄ニテ多量ノ煤ニ進中ハ心ノクニ 一年ノ 倉庫ノウツタネニテ是レニ一 塊 尤 止 不 アメ 玉、砂糖ニシテ此、上ノ馬肉ニテ自任増シテ下 是ノ、口ガ入用ノ人ノ何ニテモ云々云々云々云々 是ノ前夜、ソノ夜ハ洗迄ハ一 自 外 句 ノ 聖 理 フナ土中ニシテ此、是ノ、是ノ前ハ何時迄も 百ニシテ云々云々

煙 吸 4.5

所感	日 一 十 月 三			時 事
	臘 水			
	豫	記	天 氣 曇 晴	時 事 七時前迄は晴れ、夜更に大霧ト成リテ後夜中ハ何処迄も 目 大 霧 下 ノ 不 透 云 ハ 眩 云 事 九時迄ハ公地ノ草未ニ病没ニシテ下ノ不 透 云 見、クレイガエタ ンゲニ切ラト砂糖少ニ匹洗迄ニ分増ス自前ヨリ銅 ニソ置シセシヤニ十二時迄ニテ多量ノ煤ニ進中ハ心ノクニ 一年ノ 倉庫ノウツタネニテ是レニ一 塊 尤 止 不 アメ 玉、砂糖ニシテ此、上ノ馬肉ニテ自任増シテ下 是ノ、口ガ入用ノ人ノ何ニテモ云々云々云々云々 是ノ前夜、ソノ夜ハ洗迄ハ一 自 外 句 ノ 聖 理 フナ土中ニシテ此、是ノ、是ノ前ハ何時迄も 百ニシテ云々云々

二人共歩ル 九ナテキ大治ニテ下更ノ 自 不 透 云 ハ 眩 云 事 力ニシ

時事

雨天

暖寒

豫記

日 四 十 月 三

所感

高年退任... 此の頃... 中七... 及び... 今... 生... 此... 指...

不...

時事

雨天

暖寒

豫記

日 五 十 月 三

所感

乾式... 芋... 其... 夜... 此... 今... 又...

大... 高... 危... 今... 昨... 一... 口... 設... 大... 是...

事... 便... 國... 大...

日出 五時五十二分 日没 五時四十九分

時事

大雨 夕 晴 驟

此より三ヶ月前 江戸

甚 七ヶ月前

夜 赤い玉子 巻子

ボウシ玉子 一ツツ

春 雨 中

所感

自然の成り立ちを知るべし 又 春の雨

三月十六日

曜月

六ヶ月前 雨ノ降ル 江戸 此より三ヶ月前 江戸 甚 七ヶ月前 夜 赤い玉子 巻子 ボウシ玉子 一ツツ 春 雨 中

六ヶ月前 雨ノ降ル 江戸 此より三ヶ月前 江戸 甚 七ヶ月前 夜 赤い玉子 巻子 ボウシ玉子 一ツツ 春 雨 中

時事

天 晴 可 多 雲 驟

此 大 福 味 味 打 玉 子 焼

甚 餅 也 打 焼 子

夜 赤い玉子 巻子

ボウシ玉子 一ツツ

春 雨 中

所感

カキヤカ 方オノノト

三月十七日

曜火

此 大 福 味 味 打 玉 子 焼 甚 餅 也 打 焼 子 夜 赤い玉子 巻子 ボウシ玉子 一ツツ 春 雨 中

此 大 福 味 味 打 玉 子 焼 甚 餅 也 打 焼 子 夜 赤い玉子 巻子 ボウシ玉子 一ツツ 春 雨 中

新月 前八時五十分

今 月 日 鳴 々

時事

木曜

三月十八日

所感

気天 快晴

暖寒

豫記

此亦ヤシフケニ玉子
ハレハ、ハレハ、ハレハ、

世ニキクノレ、イワレ

和彦、梅干一ヤ

ウデ玉子ニク

夕アヨク銅ニ焼

ホレニ羊ト目ニ

フヤ、

ウニ、顔ニツラ例、也

寧々、

風ナク世イロクク、

起ヤケテ、不便モコアリ、

ア、ハレハ、ハレハ、

奇、年、年、

友、一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

所感

三月十九日 木曜

時事

気天 晴

暖寒

豫記

此亦ヤシフケニ玉子

ホレニ羊

世ニキクノレ、イワレ

和彦、梅干一ヤ

ウデ玉子ニク

夕アヨク銅ニ焼

ホレニ羊ト目ニ

フヤ、

ウニ、顔ニツラ例、也

寧々、

仁、

十、

少、

知、

疑、

下、

人、

世、

口、

原、

田、

田、

いふ事、

北条寺亮

所感	日一十二月三	曜	時事
中々	夜身ハイノ玉子 ヒラアテ煮、人 ヒトカノ煮付	豫記	晴天 晴
増殖ス様

春季皇曆祭 春分 後三時十一分 日出 五時四十五分 日没 五時五十三分

所感	日十二月三	曜	時事
...	晴天 晴
...

九月廿七日

所感	日七十二月三	曜金	時事
	天候	晴	暖寒
<p>夜、カエト至</p>			
<p>此の夜、雨は降らぬ。朝も雨はない。天気は晴れ。気温は暖かい。湿度は低い。風は弱い。雲は薄い。空は青い。木々は緑い。草は生い茂る。花は咲く。鳥は鳴く。虫は動く。人々は働く。物事は進む。世間は忙しう。生活は豊か。未来は明るい。希望は多い。夢は大きい。志は高く。情は熱く。意は堅く。心は広い。胸は大きく。肩は力強く。手は巧み。足は速く。腰は元々。背はまっすぐ。顔は笑顔。声は元気。目は輝く。髪は艶々。肌は綺麗。服装はオシャレ。食事は美味しい。住居は快適。交通は便利。娯楽は充実。文化は盛ん。科学は発達。産業は発展。社会は安定。国家は強国。世界は平和。人類は繁栄。文明は進歩。未来は希望に満ちた。</p>			

所感	日六十二月三	曜木	時事
	天候	晴	暖寒
<p>夜、カエト至</p>			
<p>此の夜、雨は降らぬ。朝も雨はない。天気は晴れ。気温は暖かい。湿度は低い。風は弱い。雲は薄い。空は青い。木々は緑い。草は生い茂る。花は咲く。鳥は鳴く。虫は動く。人々は働く。物事は進む。世間は忙しう。生活は豊か。未来は明るい。希望は多い。夢は大きい。志は高く。情は熱く。意は堅く。心は広い。胸は大きく。肩は力強く。手は巧み。足は速く。腰は元々。背はまっすぐ。顔は笑顔。声は元気。目は輝く。髪は艶々。肌は綺麗。服装はオシャレ。食事は美味しい。住居は快適。交通は便利。娯楽は充実。文化は盛ん。科学は発達。産業は発展。社会は安定。国家は強国。世界は平和。人類は繁栄。文明は進歩。未来は希望に満ちた。</p>			

日九十月二...

日八十二月三

所感 豫記 氣天 晴 暖寒

Handwritten notes on the right page, including '今日... 明日... 昨日...' and other vertical text.

日九十二月三

所感 豫記 氣天 晴 暖寒

Handwritten notes on the left page, including '今日... 明日... 昨日...' and other vertical text.

○滿月 後九時三十三分 日出 五時二十九分 日没 六時二分

所感

日	一	月	四	臘木	時事
				氣天	晴
				豫	
				記	
				暖寒	

天気がよく歩道師と云うところまで歩ん
 だ大満足
 井口山より五里あるところ、樹人の居る
 所より歩くと
 古の吾和木作古海也、并喰と意已、情美
 けしと情をこころあふりし何れかこころを
 へんか、所成りてはるるを是れなり、是れ
 所成りて中送る、夜半望木のるる古
 木の匂いと念ふるか、安心するはるるが
 了り

三月三十日



蛸對流花びらながれ蛸流る
 鳥頭子



重要記事

二、風止んで、一日お静か、以て鳴く
 雲の早、早夏景色、ぬる汗

時事

曜土

四月四日

所感

天 晴
暖寒

豫記

世 船不
ヤウノヤ

凡れ之向乍好不悦と云ふ事ありけり之所何れに
入るに事なく沙汰のしき事なき印は信じて可なり
上の下竹花

仰送り候なり

世 夜 夜
ワコノヤ
ワコノヤ

何れかの如く申す事ありけり之れ何れ
セシヤキ

夜 寄席中遊り候なり
午 夜 退下屋本取々
退り候行末等下見し刻御事出等、多しなり

泊王ノ用アノマノニ坐書す

時事

曜日

四月五日

所感

天 氣 風
強
水
暖寒

豫記

夜 夜
有々七元
甚ま下午一十午礼
夜 塚スリ候

終り風強く夜々
午 今 中々好
午 夜 一の目
強き之等なり

清明 後七時二十四分 復活祭

時事

曜月

四月六日

所感

天気 曇雨 暖寒

豫記

養生子

生牛乳、オコノミ焼

餅

灰、マコト、焼かす

羊—ハカガ

今日も雨もあつた、夕飯、これだけだ、雨の日は、

体が、メタマ、人を見ても、今日も、今日も、今日も、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

夜入工工ノ致初マ行

17

時事

曜火

四月七日

所感

天気 曇

暖寒

豫記

死ハシ

蒸焼子、タイミン

夜中草、ラレラウ

三ツ、午乳

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、今日、

天気 晴
風 暖
水 雨
記

昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
也のよの夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん

天気 晴
風 暖
水 雨
記

昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん
昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん

所感 昨日の夜風は方々吹、妻の雨トたん

日出 五時九分 日没 六時十四分

時事

曜木

日六十月四

所感

氣天

豫

暖寒

記

七時正休日の中、午後、田舎に遊び、其處に於て、
芝居の入り、御人下、余の友人、此處に於て、
芝居の入り、御人下、余の友人、此處に於て、
芝居の入り、御人下、余の友人、此處に於て、
芝居の入り、御人下、余の友人、此處に於て、
芝居の入り、御人下、余の友人、此處に於て、

時事

曜金

日七十月四

所感

氣天

曇

暖寒

豫

記

北風強、寒、霧、雨、降、り、
七時正休日の中、午後、田舎に遊び、其處に於て、
芝居の入り、御人下、余の友人、此處に於て、
芝居の入り、御人下、余の友人、此處に於て、
芝居の入り、御人下、余の友人、此處に於て、
芝居の入り、御人下、余の友人、此處に於て、

大潮

氣天
星
暁雨
暖寒

豫
記

予は家へ入る、其の意は、何事もなく、静かに坐す。此の頃、雨風の聲は、遠くからかきこえて来る。心は、静かになり、自然と涙が頬を流れる。此の涙は、何事もなく、ただ静かに流れる。此の涙は、静かに流れる。此の涙は、静かに流れる。

氣天
星
暁雨
暖寒

豫
記

予は家へ入る、其の意は、何事もなく、静かに坐す。此の頃、雨風の聲は、遠くからかきこえて来る。心は、静かになり、自然と涙が頬を流れる。此の涙は、何事もなく、ただ静かに流れる。此の涙は、静かに流れる。此の涙は、静かに流れる。

所感
穀雨 前二時三十九分
山

時事

水曜

四月二十二日

所感

天気 晴

寒暖

豫記

日知ふく野子の京午まじりし中、三山、始りて
 始りて、スガと強き一雨、中、田舎、見ゆ
 自分、候久向、御多、あり、之、候、書、心、介、
 決定、心、おろし、か、この、主、率、下、候、心、後、取、
 う、心、介、候、者、多、あり、せ、
 十一、日、二、命、出、是、世、介、ト、白、御、下、
 候、心、介、候、者、多、あり、せ、
 十一、日、二、命、出、是、世、介、ト、白、御、下、
 候、心、介、候、者、多、あり、せ、

時事

木曜

四月二十三日

所感

天気 晴

寒暖

兼記

カ、
 と、
 の、
 免、
 入、

六、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、

孔子祭、時、記

孔子祭

所感	日六十二月四		臘日	時事
	豫		氣天 晴	記
<p>六の可なり迄本行の事や鳥ハヒヨコエツ其ノ葉 或ノリ入シツト人ヒヨコノ物ニコレヲ取イラヤん 何時甲子年ニコレヲ獲也此ノ鳥ニ横帯人ノ形 ヲ備ケラザらんコレヲか合ラズイハレ獲也此ノ鳥ノ 子テ昔イラズレバ一ノ信ヲ又 終ニ金物トヒヨコ、親言強強給 タルハ此ノ大故第一ノ事今ノ語ニテ 午故形物ノ事子カ徳ノ人ニ送レラズルニコレニテ 修ノ事カ徳ノ事、奇蹟ニ及外ノ事行テん 先ニ酒持テセテヤん</p>				

所感	日七十二月四		臘月	時事
	豫		氣天 晴 風	記
<p>七の可なり迄本行の事や鳥ハヒヨコエツ其ノ葉 或ノリ入シツト人ヒヨコノ物ニコレヲ取イラヤん 何時甲子年ニコレヲ獲也此ノ鳥ニ横帯人ノ形 ヲ備ケラザらんコレヲか合ラズイハレ獲也此ノ鳥ノ 子テ昔イラズレバ一ノ信ヲ又 終ニ金物トヒヨコ、親言強強給 タルハ此ノ大故第一ノ事今ノ語ニテ 午故形物ノ事子カ徳ノ人ニ送レラズルニコレニテ 修ノ事カ徳ノ事、奇蹟ニ及外ノ事行テん 先ニ酒持テセテヤん</p>				

所感

日九十二月四

曜水

時事

氣天
曇晴
晴寒

豫記

Blank space for notes

親友あり親友あり
今春も暑くはまゝ、エラヤヤ、也、例、例、
今、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
親友、親友、親友、親友、親友、
親友、親友、親友、親友、親友、

所感

日八十二月四

曜火

時事

氣天
晴曇
暖寒

豫記

Blank space for notes

親友あり親友あり
今春も暑くはまゝ、エラヤヤ、也、例、例、
今、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
親友、親友、親友、親友、親友、
親友、親友、親友、親友、親友、

時事 (秋以下、後登壇)

天
氣
豫
記
寒暖

木曜 四月三十日

所感

三月の連日、地中を歩いた。たつたのつら
は、たつたのつら。あつたのつら。あつたのつら。
あつたのつら。あつたのつら。あつたのつら。
あつたのつら。あつたのつら。あつたのつら。
あつたのつら。あつたのつら。あつたのつら。
あつたのつら。あつたのつら。あつたのつら。

重要記事



五月
香晴やいまだ松とも柳とも

燕子

知物ト弓ヲ

○満月 前六時五十九分 日出 四時五十分 日没 六時三十七分

所感	日 一 月 五			曜 金	時 事
				氣天	晴
			豫	暖寒	
			記		
<p>日ハ一ノリ</p> <p>定例ノ如クハ出雲州ノ比方ノ大妻町ニシテ</p> <p>八日卯迄ハ雨多シト云々ノ事ナリ然レテ亦知リト事</p> <p>翌日ハ打込セテ其ノ事ニ付テハ故テ旅立向ノ日ト云</p> <p>其レハ今ノ大知者ノ今頃ニシテハ雨多ク大ニツラ</p> <p>ク事ナリ由致ルルニ付テハ外ニツラニ付テハ</p> <p>科産病ノ指被ルル事ナリト云々ノ事ナリ</p> <p>ノ事ナリ一ノ事ニ付テハ其ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p> <p>又仰者ノ事ナリト云々ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p> <p>ノ事ナリト云々ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p> <p>ノ事ナリト云々ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p>					

所感	日 二 月 五			曜 土	時 事
				氣天	晴
			豫	暖寒	
			記		
<p>昔ハ十ノ事ナリ然レテ亦知リト事</p> <p>七ノ事ナリト云々ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p> <p>六ノ事ナリト云々ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p> <p>五ノ事ナリト云々ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p> <p>四ノ事ナリト云々ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p> <p>三ノ事ナリト云々ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p> <p>二ノ事ナリト云々ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p> <p>一ノ事ナリト云々ノ事ナリト云々ノ事ナリ</p>					

八十八夜

五ノ月三日ノ夕

所感	日 三 月 五				時事
	豫				記
					<p>今日の午後、友人の送別会あり、甚だ女子ト静寂あり 夕方の次席に色紙の贈り物あり、贈り物 外に作のふりかへし、下書きあり、 手紙お返し、石炭整配し、冷たい飯、 せんべい、持て来り、 不都合あり、 夕方の福毛、十時、 夕方の福毛、十時、</p>

所感	日 四 月 五				時事
	豫				記
					<p>今日の午後、友人の送別会あり、甚だ女子ト静寂あり 夕方の次席に色紙の贈り物あり、贈り物 外に作のふりかへし、下書きあり、 手紙お返し、石炭整配し、冷たい飯、 せんべい、持て来り、 不都合あり、 夕方の福毛、十時、 夕方の福毛、十時、</p>

時事

木曜

五月七日

所感

天氣

雨

晴寒

豫記

Vertical columns of faint handwritten text, likely a diary or journal entry.

今日雨介... 昨日... 明日... 天気... 雨... 晴寒... 所感... 日記... 感想...

時事

金曜

五月八日

所感

天氣

曇

暖寒

豫記

Vertical columns of faint handwritten text, likely a diary or journal entry.

サレ工海戦大勝

今日... 昨日... 明日... 天気... 曇... 暖寒... 所感... 日記... 感想...

所感	日	十	月	五	曜	日	時
							氣天
							晴
							豫
							記
<p>六町寺迄林の中一匹の鹿二匹生らるるの事 一画ま完結の全編より後より先を可せん故に 昨夜も夜更に書き終りて一頁迄破れりて 書き終りてトス所定へ可成り多し故に 心配しやい故ト可成り也 11の月より4日迄の物語りの布地中より一匹の鹿 鳥籠より一羽を捕りて其の羽を剥ぎ取りて 中んつるをいかに細く切る也 年取の所んをわたりて 昔の如く、定かして種と伝へし、二羽有知 成り又其の如く、傳へし、夕方迄に此の事</p>							

去年一匹の鹿を捕りて其の羽を剥ぎ取りて
 中んつるをいかに細く切る也
 昔の如く、定かして種と伝へし、二羽有知
 成り又其の如く、傳へし、夕方迄に此の事

所感	日	九	月	五	曜	土	時
							氣天
							曇
							豫
							記
<p>六町寺迄林の中一匹の鹿二匹生らるるの事 一画ま完結の全編より後より先を可せん故に 昨夜も夜更に書き終りて一頁迄破れりて 書き終りてトス所定へ可成り多し故に 心配しやい故ト可成り也 11の月より4日迄の物語りの布地中より一匹の鹿 鳥籠より一羽を捕りて其の羽を剥ぎ取りて 中んつるをいかに細く切る也 昔の如く、定かして種と伝へし、二羽有知 成り又其の如く、傳へし、夕方迄に此の事</p>							

かたや産卵の如し

所感

日 二十月五

曜 火

時事

氣天
晴
以
曇
雨

豫
記

ありて此に或は訓之ゆゑに極く、此に
公け得ぬ、珍なり。此れ、此れ、此れ、此れ、
京師中より、此れ、此れ、此れ、此れ、
ナリ、ナリ、此れ、此れ、此れ、此れ、
ナリ、ナリ、此れ、此れ、此れ、此れ、
何れ、何れ、此れ、此れ、此れ、此れ、
何れ、何れ、此れ、此れ、此れ、此れ、
何れ、何れ、此れ、此れ、此れ、此れ、
何れ、何れ、此れ、此れ、此れ、此れ、
何れ、何れ、此れ、此れ、此れ、此れ、
何れ、何れ、此れ、此れ、此れ、此れ、

この本は、一七九三年の刊行である。その内容は、

かたや産卵の如し

所感

日 一十月五

曜 月

時事

氣天
晴
寒
記

此の年、此れ、此れ、此れ、
此れ、此れ、此れ、此れ、
此れ、此れ、此れ、此れ、
此れ、此れ、此れ、此れ、
此れ、此れ、此れ、此れ、
此れ、此れ、此れ、此れ、
此れ、此れ、此れ、此れ、
此れ、此れ、此れ、此れ、
此れ、此れ、此れ、此れ、
此れ、此れ、此れ、此れ、
此れ、此れ、此れ、此れ、

所感	日	四	十	月	五	曜	木	時	事
<p>此の日記は、 花の咲く時 に記す。花 の咲く時 は、心 の静かな る時である。 花の咲く 時は、心 の静かな る時である。 花の咲く 時は、心 の静かな る時である。</p>	<p>天候 曇り 暖かい</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>
	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>

所感	日	三	十	月	五	曜	木	時	事
<p>この日記は、 花の咲く時 に記す。花 の咲く時 は、心 の静かな る時である。 花の咲く 時は、心 の静かな る時である。 花の咲く 時は、心 の静かな る時である。</p>	<p>天候 曇り 暖かい</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>
	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>	<p>朝 霧 雨</p>

時事

金曜

五月十五日

所感

天氣

晴

暖寒

豫記

Handwritten notes in the top section of the right page.

Main handwritten text on the right page, starting with '是則此...'

時事

土曜

五月十六日

所感

天氣

晴

暖寒

豫記

Blank space in the top section of the left page.

Main handwritten text on the left page, starting with '是則此...'

日出 四時三十六分 日没 六時三十九分

天気 曇夜雨

暖寒

豫記

七時迄は晴れ、かゝる八時ころより雨降る。今迄は
 大分ユレかゝり、九時迄は雨止、掃地し
 して巾着便、控室へ入る。糖をたし、血圧の何と
 此より、心臓、方の大なる血の流る、たゞ、
 カチノ控室の、外押さへ、
 今も、年中、控室、親音、控室、控室、
 午後、何と、せせ、あ、あ、あ、
 大い、大い、控室、控室、控室、
 大い、大い、控室、控室、控室、
 大い、大い、控室、控室、控室、
 大い、大い、控室、控室、控室、

天気 曇

暖寒

豫記

七時迄は晴れ、かゝる八時ころより雨降る。今迄は
 大分ユレかゝり、九時迄は雨止、掃地し
 して巾着便、控室へ入る。糖をたし、血圧の何と
 此より、心臓、方の大なる血の流る、たゞ、
 カチノ控室の、外押さへ、
 今も、年中、控室、親音、控室、控室、
 午後、何と、せせ、あ、あ、あ、
 大い、大い、控室、控室、控室、
 大い、大い、控室、控室、控室、
 大い、大い、控室、控室、控室、
 大い、大い、控室、控室、控室、

上 廿 後六時十一分

所感	日三十二月五					曜	土	時事
						象	晴	暖寒
					記			
<p>終の二場五の行先を仰りしに、後々長んぞと云ふ べきは、此の口から、其のくさくさ、其のくさくさ 今、此の口から、其のくさくさ、其のくさくさ 其のくさくさ、其のくさくさ、其のくさくさ 其のくさくさ、其のくさくさ、其のくさくさ</p>								

所感	日四十二月五					曜	日	時事
						象	晴	暖寒
					記			
<p>其のくさくさ、其のくさくさ、其のくさくさ 其のくさくさ、其のくさくさ、其のくさくさ 其のくさくさ、其のくさくさ、其のくさくさ 其のくさくさ、其のくさくさ、其のくさくさ 其のくさくさ、其のくさくさ、其のくさくさ</p>								

時事

月曜

五月二十日

所感

天気

晴

寒暖

豫記

昨日午後多雪
下り強多し
此れ、土曜夜合ふ
雪

小町、物色は町了、たゞ二番、昔は、此處、新橋、一軒
河内、此、新橋、一、夏、雪、り、一、ス、ヒ、子、夜、合、の、雪、
この、雪、は、又、一、軒、の、石、橋、の、雪、は、一、等、の、雪、は、
後、夜、と、口、便、之、十日、の、雪、は、入、昔、時、向、か、早、い、
今年、分、固、く、比、合、る、能、く、エ、ス、リ、ん、今、年、
一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
二、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
三、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
四、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
五、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
六、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
七、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
八、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
九、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
十、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、

時事

火曜

五月二十日

所感

天気

晴

寒暖

豫記

Blank area for weather forecast and notes.

終、之、物、色、は、町、了、
今、の、仁、之、物、色、は、町、了、
此、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
後、夜、と、口、便、之、十日、の、雪、は、入、昔、時、向、か、早、い、
今年、分、固、く、比、合、る、能、く、エ、ス、リ、ん、今、年、
一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
二、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
三、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
四、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
五、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
六、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
七、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
八、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
九、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、
十、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、一、軒、の、雪、は、

時事

曜日

五月三十一日

所感

気天
晴
豫
記

又日近き故に、
 う例、
 う、
 何よか、
 望、
 更、
 合、
 ア、
 控、
 柄、

重要記事

六、
 性的、



雨二滴日は照りかへす
 虚子

所感
豫 記
氣天 曇り
暖寒

今日早起床七時起き運動機が七時半に到着した
九時半 柏戸同僚一編長合衆の間で出入り
石倉官向より助命七ん今も到着前でもう
二時終了 柏戸の十時半の無事作りの本倉館
二時知、未だ東京の約一合衆入り相手を
終入地は、皆物の方より二時半に

所感
豫 記
氣天 雨
暖寒

六時半迄散歩の事、冷山、芦田、早屯、ト、少海に
散歩の事、在り、海に波の小打合を二時半より不場
午後、幸望、候、候、候、一、日、今、也、了、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、
今日、幸望、候、候、候、候、候、候、候、候、

天 氣
豫 記

此の年迄は、秋の雨に、
 信じて、世に、
 来り、念、
 挿、
 二、
 才、
 増、
 了、
 中、
 一、

天 氣
豫 記

六、
 金、
 此、
 十、
 今、
 併、
 下、
 介、
 又、

時の記念日

所 感 日 十 月 六 日 木 曜 時 事

氣天 晴
豫 記 暖寒

此の日は、
平、何れか、
お、
十、
十、

所 感 日 九 月 六 日 火 曜 時 事

氣天 曇少雨
豫 記 暖寒

この日は、
十、
十、

時事

臘木

日一十月六

所感

天氣

晴

暖寒

豫

記

七の日に此の如く今日も観音菩薩の御名を
 申すに値ふ正午の時なり。其の如く、
 賦を乞ふに、汝の如く、汝の如く、
 世間の如く、世間の如く、
 此の如く、此の如く、
 取成り候ふ。其の如く、
 同く候ふ。其の如く、
 仁に候ふ。其の如く、
 此の如く、此の如く、
 此の如く、此の如く、

時事

臘金

日二十月六

所感

天氣

晴

暖寒

豫

記

七の日に此の如く今日も観音菩薩の御名を
 申すに値ふ正午の時なり。其の如く、
 賦を乞ふに、汝の如く、汝の如く、
 世間の如く、世間の如く、
 此の如く、此の如く、
 取成り候ふ。其の如く、
 同く候ふ。其の如く、
 仁に候ふ。其の如く、
 此の如く、此の如く、
 此の如く、此の如く、

所感 日三十月六 曜土 時事

天氣 晴
豫 記
暖寒

六十年近來の時局は、
及上著夏時之弊作らるる
不の流りたる事ありん
年久立則之の物作気
夜有る事ありん
上の時子懐治序
...

所感 日四十月六 曜日 時事

天氣 風雨
豫 記
暖寒

七月半迄は、
十一日二時、
物之丁、
戸の、
...

●新月 前六時三分 月最遠

夏至 前十時十七分 上弦 前五時四十四分 日出 四時三十分 日没 七時

所感		六月二十二日		月曜		時事	
		天		氣		豫	
...		
...		
...		
...		

所感		六月二十一日		日曜		時事	
		天		氣		豫	
...		
...		
...		
...		
...		

時事

曜木

日五十二月六

所感

天
星
雨
風
暖寒

豫記

Blank space for weather notes.

Handwritten text in vertical columns, likely a diary entry or report.

時事

曜金

日六十二月六

所感

天
雨
暖寒

豫記

Blank space for weather notes.

Handwritten text in vertical columns, likely a diary entry or report.

○満月 後九時九分

所感

日八十二月六

曜日

時事

氣天

晴

暖寒

豫

記

Blank space for weather and forecast notes.

Handwritten diary entries in vertical columns, starting with '昨日の夜' (Last night).

曜土

時事

氣天

晴

暖寒

豫

記

日七十二月六

所感

Blank space for weather and forecast notes.

Handwritten diary entries in vertical columns, starting with '今朝' (This morning).

Horizontal handwritten notes at the bottom of the pages.

日出 四時二十八分 日没 七時一分

所感	水	七	時事
	天	氣	豫
所感	水	七	時事
所感	水	七	時事



麥飯に何れ申さじ夏の月
東城

重要記事

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a journal entry or report.

時事

臘木

日 二 月 七

所感

氣天

晴

暖寒

豫記

Handwritten notes in the top section of the right page, including the characters '豫記'.

Main handwritten text on the right page, starting with '今日... 昨日... 明日...'.

時事

臘金

日 三 月 七

所感

氣天

曇

暖寒

豫記

Handwritten notes in the top section of the left page, including the characters '豫記'.

Main handwritten text on the left page, starting with '今日... 昨日... 明日...'.

乙内 亦久

時事

晴

七月四日

所感

天氣
豫
記

この考ふゆゑに、
松崎の一人、
栗田の足、
百田の利、
下北の七、
二子、
山手、
七日、

時事

晴

七月五日

所感

天氣
晴
記

この考ふゆゑに、
松崎の一人、
栗田の足、
百田の利、
下北の七、
二子、
山手、
七日、

〔下盤〕 後五時五十八分

時事

曜木

日 八 月 七

所感

気天

晴

暖寒

豫記

二年の三月に於て、十の月、ナの時、大車少候、命を自毫
 一、電人、即由イ、カ、以、ト、ト、大、キ、イ、マ、カ、於、ト、イ、ウ、一、坊、定、の
 二、ナ、西、京、流、ル、ア、ト、ト、イ、候、ホ、ウ、ミ、ヨ、カ、任、ト、迷、ル、ヨ、ク、文
 三、改、メ、イ、テ、イ、ト、改、メ、ア、ン、ツ、ア、テ、一、改、進、エ、既、初、ア、ヒ、ナ、リ
 四、内、ト、是、が、的、ニ、一、と、修、ル、イ、ク、ア、カ、テ、カ、ラ、ク、二、命、ノ、事、指、テ、
 五、一、寸、強、ク、此、取、ラ、ハ、誠、作、コ、ヤ、ウ、テ、ナ、有、解、ナ、ノ、一、分、測、ル、必、事
 六、此、事、ト、自、立、カ、ル、イ、テ、改、メ、レ、ト、イ、テ、カ、キ、テ、ル、事、ナ、レ、キ、ル、事、
 七、是、モ、今、ア、行、テ、ナ、カ、レ、ク、ナ、リ、ト、テ、五、改、定、ム、事、前、之
 八、ト、當、面、主、の、此、事、ナ、立、指、テ、見、送、ク、此、合、コ、ウ、情、字
 九、ヤ、先、ト、公、ク、指、字、ト、然、ス、可、シ、ク、ノ、以、テ、老、知、合、ク、
 一〇、ア、ラ、均、ス、事、ト、テ、テ、テ、と、此、コ、イ、ト、ノ、カ、ク、シ、ク、ナ、リ、

時事

曜木

日 九 月 七

所感

気天

晴

暖寒

豫記

此の事、人、本、事、成、起、ル、事、ナ、リ、
 其の此、事、成、起、ル、一、寸、イ、テ、亦、未、知、ル、事、ナ、カ、ル、ナ、リ、
 情、ノ、此、の、也、情、ノ、此、の、也、情、ノ、此、の、也、情、ノ、此、の、也、
 今、有、日、然、ル、中、一、尺、四、寸、の、事、ナ、リ、
 今、有、日、然、ル、中、一、尺、四、寸、の、事、ナ、リ、
 ナレバ、其、事、成、立、ル、事、ナ、リ、
 其、事、成、立、ル、事、ナ、リ、
 其、事、成、立、ル、事、ナ、リ、
 其、事、成、立、ル、事、ナ、リ、
 其、事、成、立、ル、事、ナ、リ、
 其、事、成、立、ル、事、ナ、リ、
 其、事、成、立、ル、事、ナ、リ、
 其、事、成、立、ル、事、ナ、リ、
 其、事、成、立、ル、事、ナ、リ、

時事

曜日

七月二十日

所感

天氣

晴

暖寒

記

Handwritten notes in the top section of page 202.

Main handwritten text on page 202, starting with '今日之暑...'.

時事

曜日

七月三十日

所感

天氣

曇

暖寒

雜記

Handwritten notes in the top section of page 203.

Main handwritten text on page 203, starting with '今日之暑...'.

時事

曜火

日四十月七

所感

氣天

豫

暖寒

記

Handwritten notes in the top section of page 204, including the characters '晴' and '暖寒'.

Main handwritten text on page 204, starting with '七時に... 祈教... 祈免...'

時事

曜水

日五十月七

所感

氣天

豫

暖寒

記

Handwritten notes in the top section of page 205, including the characters '晴' and '暖寒'.

Main handwritten text on page 205, starting with '七時に... 祈教... 祈免...'

正徳益會

日出 四時三十六分 日没 六時五十七分

時事
土曜 七月十八日

所感

豫 記

氣天 晴
暖寒

今日も終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す
 一昨日は終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す
 一昨日は終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す
 一昨日は終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す

時事
日曜 七月十九日

所感

豫 記

氣天 晴
暖寒

今日も終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す
 一昨日は終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す
 一昨日は終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す
 一昨日は終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す

ト終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す
 一昨日は終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す
 一昨日は終日在宅奉養不仕向目方とヤル外中
 一昨日は決意スラシク是れを以て之を以て
 太一の改命可自名之事は是れ也
 終極之ヲ安心處之ヲ示す止す物之ヲ示す

時事 曜月 日十二月七

概 天 晴
 霧 記
 梅こう介りの長き雨の
 こし不毛の念此ノ快定
 雲り中極多き雨
 松島若山・浦・喜他
 小川村近カレコレエ
 コトコエハト知ヒ地
 乙作、多死、山花
 才アト、御んせの吹
 多死、田木、小東村

此年、梅子早川の雨多し、太田ノ地、さうあつ、り、さ、り、自
 一、大なる事多し、中、冬、十、日、ノ、雨、多、く、由
 雨、雨、地、者、十、日、之、ま、り、雨、多、く、梅、子、結、合、始、り、十、日、位、分、修、了、す
 梅、子、の、花、の、老、弱、の、地、任、承、り、り、お、席、七、日、十、日、の、雨、多、く、雨、
 花、花、雨、ハ、ト、樹、口、以、り、正、午、前、書、合、一、時、ノ、定、立、つ
 急、じ、り、り、梅、子、以、下、近、所、若、し、知、り、り、所、合、了、る、
 カ、ワ、リ、こ、こ、之、地、不、別、の、名、以、り、十、日、分、合、合、以、り、近、所、若、し、
 ヤ、ウ、止、り、り、書、り、り、の、雨、多、く、水、ノ、立、止、り、合、合、合、合、合、合、
 乙、書、ノ、知、り、り、合、合、合、合、合、合、合、合、合、合、合、合、
 梅、子、ハ、イ、ロ、ロ、ん、然、ら、う、と、多、死、り、梅、子、の、知、り、り、是、り
 才、ア、ア、フ、ハ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、
 才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、

時事 曜月 日十二月七

概 天 晴
 霧 記
 こ、梅、子、ハ、ト、雨、水、
 多、死、り、り、下、下、
 才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、
 梅、子、ハ、イ、ロ、ロ、ん、然、ら、う、
 才、ア、ア、フ、ハ、カ、カ、カ、カ、
 才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、

此年、梅子早川の雨多し、太田ノ地、さうあつ、り、さ、り、自
 一、大なる事多し、中、冬、十、日、ノ、雨、多、く、由
 雨、雨、地、者、十、日、之、ま、り、雨、多、く、梅、子、結、合、始、り、十、日、位、分、修、了、す
 梅、子、の、花、の、老、弱、の、地、任、承、り、り、お、席、七、日、十、日、の、雨、多、く、雨、
 花、花、雨、ハ、ト、樹、口、以、り、正、午、前、書、合、一、時、ノ、定、立、つ
 カ、ワ、リ、こ、こ、之、地、不、別、の、名、以、り、十、日、分、合、合、以、り、近、所、若、し、
 ヤ、ウ、止、り、り、書、り、り、の、雨、多、く、水、ノ、立、止、り、合、合、合、合、合、合、
 乙、書、ノ、知、り、り、合、合、合、合、合、合、合、合、合、合、合、合、
 梅、子、ハ、イ、ロ、ロ、ん、然、ら、う、と、多、死、り、梅、子、の、知、り、り、是、り
 才、ア、ア、フ、ハ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、カ、
 才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、才、ハ、

時事

曜日

日六十二月七

所感

氣天

晴

晴寒

記

此日、延福院に於て、山崎先生、九時御光
 臨幸。十一時、山崎先生、御光、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、

時事

曜日

日七十二月七

所感

氣天

晴

暖寒

記

此日、延福院に於て、山崎先生、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、
 此日、延福院に於て、山崎先生、御光、

所 感	<p>日八十二月七 曜火</p>	<p>時 事</p>
	<p>氣天 晴</p>	
	<p>豫 記</p>	<p>曜寒</p>
	<p> 平野内予本木下... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... </p>	

所 感	<p>日九十二月七 曜水</p>	<p>時 事</p>
	<p>氣天 晴</p>	
	<p>豫 記</p>	<p>曜寒</p>
	<p> 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... 予... </p>	

此夕夜に候ふ所なり

時事

不 曜

七 月 三 十 日

所 感

天氣

晴

暖寒

豫

記

予は酒を介介の二時強一茶多を以て之を以て
 之に近き如き人トシ之の物より而ト亦下へ其名を記
 して之を以てす
 今、神治御璽を授けん 酒を同好する者
 依る者も亦
 夜半の静寂のしん 夜中二日の時フルト悠遊
 如き者も亦

時事

金 曜

七 月 三 十 日

所 感

天氣

晴

暖寒

豫 記

進むるは
 酒を介介の二時強
 一茶多を以て之を以て



今、酒を介介の二時強一茶多を以て之を以て
 之に近き如き人トシ之の物より而ト亦下へ其名を記
 して之を以てす
 今、神治御璽を授けん 酒を同好する者
 依る者も亦
 夜半の静寂のしん 夜中二日の時フルト悠遊
 如き者も亦

日出 四時四十八分 日没 六時四十六分

所感 日 一 月 八 曜 土 時 事

気天

情

晴

豫

記

序石定親吉理王陸ヶ陸ん方カレと日ヶ後陸入
長尾平及之切流ヶ丸ヶ一ヶ所流ヶ、唇ヶ、ヨヶクヶ
指ヶ切ヶ一ヶ果ヶ々 有木他送ヶり也、有木文ヶ
明ヶ必ヶ可ヶ入ヶ二ヶリヶリヶ神ヶ切ヶリヶカヶ子場ヶ一ヶ取ヶ
ヤト下此ヶリヶ送ヶんヶ、ヤヶ多ヶんヶリヶ、死ヶアヶ
可用ヶリヶ多ヶリヶ送ヶんヶ有仙ヶ、コトアヶケ



原風の烈くばかりなる真讀む

汀女

重要記事

原風の烈くばかりなる真讀む
汀女
...

氣天

晴

暖寒

豫記

十日分迄休也。鳥ノ見候。豫名以ハ大杯也。此ノハ
 七ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 多九ノ、主賓ノ分候。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 所ノ事定ノ由
 大ノ事ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 行ノ事ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 一ノ事ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 七ノ事ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。

氣天

晴

暖寒

豫記

十日分迄休也。鳥ノ見候。豫名以ハ大杯也。此ノハ
 七ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 多九ノ、主賓ノ分候。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 所ノ事定ノ由
 大ノ事ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 行ノ事ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 一ノ事ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 七ノ事ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。
 此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。此ノ方ノ情勢也。

二 四 三 五 六 七

所感	日	六	月	八	曜	木	時事
						氣天 暑 涼	豫 記
	今朝の日は、北風が吹くが、午後には、雨降る。北風の吹く間は、涼しいが、雨降ると、暑くなる。午後には、雨降る。北風の吹く間は、涼しいが、雨降ると、暑くなる。午後には、雨降る。北風の吹く間は、涼しいが、雨降ると、暑くなる。						

所感	日	七	月	八	曜	金	時事
						氣天 晴 寒	豫 記
	今朝の日は、晴れ、暑い。午前中は、暑い。午後には、涼しい。夕方には、涼しい。今朝の日は、晴れ、暑い。午前中は、暑い。午後には、涼しい。夕方には、涼しい。今朝の日は、晴れ、暑い。午前中は、暑い。午後には、涼しい。夕方には、涼しい。						

立秋 後一時三十分

所感	日 八 月 八							曜 土	時事
	<p>天候 晴</p> <p>豫記</p>							<p>天候 晴</p> <p>暖寒</p>	<p>時事</p>
<p>昨日は秋の気配が感じられる。朝は涼しく、日中は少し暑くなる。夕方は穏やかな風が吹く。紅葉の季節が近づいてきた。仕事も忙しなく、週末はゆっくり休みたい。家族との時間も大切にしたい。</p>									

所感	日 九 月 八							曜 日	時事
	<p>天候 晴</p> <p>豫記</p>							<p>天候 晴</p> <p>暖寒</p>	<p>時事</p>
<p>昨日は秋の気配が感じられる。朝は涼しく、日中は少し暑くなる。夕方は穏やかな風が吹く。紅葉の季節が近づいてきた。仕事も忙しなく、週末はゆっくり休みたい。家族との時間も大切にしたい。</p>									

時事

曜月

八月十日

所感

氣天

晴

暖寒

豫記

ノ音のうしろからいかり
うまのい香のうま
ワレ、スルとせ、アケ
このこいノタ、ノ今
又こいノエ、ノこい
ド、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ
ふ、い、い、い、い、い
シタ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ

物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也

時事

曜火

八月十一日

所感

氣天

晴

暖寒

豫記

ノ音のうしろからいかり
うまのい香のうま
ワレ、スルとせ、アケ
このこいノタ、ノ今
又こいノエ、ノこい
ド、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ
ふ、い、い、い、い、い
シタ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ

物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也
物事定むるに十日正に此有書介在、和、秋の也

時事

曜木

日二十月八

所感

天气 晴 暖寒

兼記

おまじやう、長水やん
 一、決定、素州
 新定成、令公成此
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の

時事

曜木

日三十月八

所感

天气 晴 暖寒

兼記

あつては、なるアト、本
 若し、た、百い、令の、た
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の
 一、此、た、百い、令の

ソ、彼、そ、う、解、色、久、凡、若、の、大、と、返、信、ア、ス

日出 四時五十九分 日没 六時三十一分

時事

曜日

八月十六日

所感

気天

晴

暖寒

記

去る迄床の下の箱にひき寄せ、同向、傍に坐す可
惜なり、又、夫の如く、年々、了す可なり、之を、代強
に、彼等の件、何れ、何れ、か、強、か、ア、ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、
正午、修、定、午、後、三、時、入、寝、居、り、す、ナリ、
夕、方、先、ト、在、り、テ、ナリ、ナリ、
昔、々、々、々、々、々、々、々、々、々、々、々、々、々、々、々、々、
ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、
昔、々、々、々、々、々、々、々、々、々、々、々、々、
備、前、々、々、々、々、々、々、々、々、
ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、
先、自、其、昔、頃、也、下、死、な、り、ナリ、ナリ、ナリ、

時事

曜月

八月十七日

所感

気天

晴

暖寒

記

定刻、此、此、此、此、此、此、此、此、此、此、
人為、長、り、已、じ、上、上、上、上、上、上、上、上、
細、孔、及、細、孔、及、細、孔、及、細、孔、及、細、孔、
ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、ナリ、
上、の、故、頃、官、向、御、初、上、之、作、ト、此、物、係、り、之、人、ナリ、
之、事、未、也、極、片、之、事、也、此、今、之、故、頃、ナリ、
中、と、其、他、ナリ、極、片、之、事、ナリ、
十三、日、無、事、ナリ、極、片、之、事、ナリ、
之、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、
之、事、未、也、極、片、之、事、也、此、今、之、故、頃、
三、日、中、候、故、頃、也、此、今、之、故、頃、ナリ、

七月二十四日

時事

曜木

日十二月八

所感

氣天

晴

暖寒

豫記

強又去の神遊
フフセの可憐
大庭子と云ふ御
91代迄、云ん哉
始

秋冷、是れ天の氣也
立所、亦、此の如く、
来り、江、下、東、西、云々、
件、確、法、了、
道、人、信、善、道、之、取、破、
強、又、去、の、神、遊、
フ、フ、セ、の、可、憐、
大、庭、子、と、云、ふ、御、
91、代、迄、と、云、ん、哉、
始

時事

曜金

日一十二月八

所感

氣天

晴

暖寒

豫記

（Faint handwritten text in the top section of page 243, mostly illegible due to fading.)

強又去の神遊
フフセの可憐
大庭子と云ふ御
91代迄、云ん哉
始

所感	日 二 十 二 月 八	曜 土	時 事
<p>感 念 之 心 一 切 皆 由 佛 之 德 也 故 願 佛 之 德 永 存 萬 世 無 疆 也</p>	<p>此 日 之 事 甚 多 且 甚 忙 碌 故 不 能 詳 述 惟 覺 佛 之 德 實 為 無 量 難 盡 其 妙 故 特 記 之 於 此</p>	<p>晴 暖 寒</p>	<p>此 日 之 事 甚 多 且 甚 忙 碌 故 不 能 詳 述 惟 覺 佛 之 德 實 為 無 量 難 盡 其 妙 故 特 記 之 於 此</p>

244 坂仙書 卷之六 八月初二日 土曜 所感

所感	日 三 十 二 月 八	曜 日	時 事
<p>感 念 之 心 一 切 皆 由 佛 之 德 也 故 願 佛 之 德 永 存 萬 世 無 疆 也</p>	<p>此 日 之 事 甚 多 且 甚 忙 碌 故 不 能 詳 述 惟 覺 佛 之 德 實 為 無 量 難 盡 其 妙 故 特 記 之 於 此</p>	<p>晴 暖 寒</p>	<p>此 日 之 事 甚 多 且 甚 忙 碌 故 不 能 詳 述 惟 覺 佛 之 德 實 為 無 量 難 盡 其 妙 故 特 記 之 於 此</p>

所感	日 四 十 二 月 八								曜月		時事
									氣天		的
									暖寒		記

青り込林の草と鳥とが丸の池の傍に
三日月の影を水面に映して
折るや甘みの多い花を
夜半に白く照らす
下の草花やうす下
谷多くある所へ
鶴は一人づつ
十

所感	日 五 十 二 月 八								曜火		時事
									氣天		晴
									暖寒		記

八日の夜
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい

八日の夜
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい
おもしろい

所感	日六十二月八	曜木	時事
	<p>氣天 晴 豫 記 暖寒</p>	<p>終るに仰孔西来東抑延以不、揚ふ念比と若月 カ抑り多預んハ何比也 指空神今日事日一也元干迄若く知人又 カ身ノ境迄不介不 海島子候月午一節一名控至、市瑞一 上の師定 香他来ノ場、昔年景後ノ分多外ノ部費カ自 分ノ退院院通カセカト莫大怖ノ金裁一體 持多事ヲ思ふ事</p>	<p>氣天 晴 豫 記 暖寒</p>
所感	日六十二月八	曜木	時事
<p>氣天 晴 豫 記 暖寒</p>	<p>終るに仰孔西来東抑延以不、揚ふ念比と若月 カ抑り多預んハ何比也 指空神今日事日一也元干迄若く知人又 カ身ノ境迄不介不 海島子候月午一節一名控至、市瑞一 上の師定 香他来ノ場、昔年景後ノ分多外ノ部費カ自 分ノ退院院通カセカト莫大怖ノ金裁一體 持多事ヲ思ふ事</p>	<p>氣天 晴 豫 記 暖寒</p>	<p>終るに仰孔西来東抑延以不、揚ふ念比と若月 カ抑り多預んハ何比也 指空神今日事日一也元干迄若く知人又 カ身ノ境迄不介不 海島子候月午一節一名控至、市瑞一 上の師定 香他来ノ場、昔年景後ノ分多外ノ部費カ自 分ノ退院院通カセカト莫大怖ノ金裁一體 持多事ヲ思ふ事</p>



所感	日七十二月八	曜木	時事
	<p>氣天 晴 豫 記 暖寒</p>	<p>終るに仰孔西来東抑延以不、揚ふ念比と若月 カ抑り多預んハ何比也 指空神今日事日一也元干迄若く知人又 カ身ノ境迄不介不 海島子候月午一節一名控至、市瑞一 上の師定 香他来ノ場、昔年景後ノ分多外ノ部費カ自 分ノ退院院通カセカト莫大怖ノ金裁一體 持多事ヲ思ふ事</p>	<p>氣天 晴 豫 記 暖寒</p>
所感	日七十二月八	曜木	時事
<p>氣天 晴 豫 記 暖寒</p>	<p>終るに仰孔西来東抑延以不、揚ふ念比と若月 カ抑り多預んハ何比也 指空神今日事日一也元干迄若く知人又 カ身ノ境迄不介不 海島子候月午一節一名控至、市瑞一 上の師定 香他来ノ場、昔年景後ノ分多外ノ部費カ自 分ノ退院院通カセカト莫大怖ノ金裁一體 持多事ヲ思ふ事</p>	<p>氣天 晴 豫 記 暖寒</p>	<p>終るに仰孔西来東抑延以不、揚ふ念比と若月 カ抑り多預んハ何比也 指空神今日事日一也元干迄若く知人又 カ身ノ境迄不介不 海島子候月午一節一名控至、市瑞一 上の師定 香他来ノ場、昔年景後ノ分多外ノ部費カ自 分ノ退院院通カセカト莫大怖ノ金裁一體 持多事ヲ思ふ事</p>

所感

天氣
晴
豫
記

定到北地... (vertical handwritten text)

所感

天氣
晴
西
記

品... (vertical handwritten text)

九月五日



馬道のまづ鳴きいでし良夜かな
秋煙子

重 慶 記 事

Handwritten Japanese text in vertical columns, starting with '馬道のまづ鳴きいでし良夜かな' and continuing with several lines of cursive script.

時 事

曜 火

天氣 晴
暖寒

九 月 一 日

所 感

Handwritten notes in the top section of the diary page, including the date and weather information.

Main body of handwritten Japanese text in vertical columns, detailing the author's observations and feelings.

大慶地身日 二百十日 日出 九時十三分 日没 六時十分

Handwritten notes in the right margin of the right page, including the characters '中' and '下'.

所感	日	九	月	二	日	九	月	二
	九	月	二	日	九	月	二	日
時事	<p>晴 陽寒</p>							
氣天	<p>晴 陽寒</p>							
豫記	<p>この日記は、この日記の... (transcription of handwritten text)</p>							
所感	<p>この日記は、この日記の... (transcription of handwritten text)</p>							

Handwritten notes in the left margin of the right page, starting with 'この日記は...'.

Handwritten notes at the bottom of the right page, including page number 256.

所感	日	九	月	三	日	九	月	三
	九	月	三	日	九	月	三	日
時事	<p>晴 陽寒</p>							
氣天	<p>晴 陽寒</p>							
豫記	<p>この日記は、この日記の... (transcription of handwritten text)</p>							
所感	<p>この日記は、この日記の... (transcription of handwritten text)</p>							

下 飯 前 春 時 四 十 二 分

二十六夜待 (月出翌前一時四十七分)

時事

所感	日	六月九	曜日	時事
			天氣 晴	
			豫 記	

時事

所感	日	七月九	曜日	時事
			天氣 晴	
			豫 記	

乙七紅

日 九 月 九 [木曜]

時事

所感
天候
豫
記

今日も大層な日
下り雨の予感あり
午後一時頃
雨の降り出す
午後三時頃
雨の降り出す
午後五時頃
雨の降り出す
午後七時頃
雨の降り出す
午後九時頃
雨の降り出す
午後十一時頃
雨の降り出す
午後十二時頃
雨の降り出す
午後一時頃
雨の降り出す
午後三時頃
雨の降り出す
午後五時頃
雨の降り出す
午後七時頃
雨の降り出す
午後九時頃
雨の降り出す
午後十一時頃
雨の降り出す
午後十二時頃
雨の降り出す

日 八 月 九 [火曜]

時事

所感
天候
豫
記

今日も大層な日
下り雨の予感あり
午後一時頃
雨の降り出す
午後三時頃
雨の降り出す
午後五時頃
雨の降り出す
午後七時頃
雨の降り出す
午後九時頃
雨の降り出す
午後十一時頃
雨の降り出す
午後十二時頃
雨の降り出す
午後一時頃
雨の降り出す
午後三時頃
雨の降り出す
午後五時頃
雨の降り出す
午後七時頃
雨の降り出す
午後九時頃
雨の降り出す
午後十一時頃
雨の降り出す
午後十二時頃
雨の降り出す

白鷺 後四時七分

所感	日 十 月 九	曜 木	時 事
	豫 記 天気 晴 暖寒		
予の著る少の時を述べて既記の如く信守と 上島十町中より高松路へ二日田中へ下りて十 名の川へ一宿を旅立ぬ陸軍一山のしが上十名 中七のほろりし一、急がせりて十町中へ極 頃、昔不文直人女を於て心々出りて有向と云ふ 此内題、予、おのれを言へりてサトシ、急がせりて 直其宿、半宿を其のこゝ迄御、既記の如く 是は言向、急がせりて一町中より高松路へ急がせりて 他七町中より高松路へ急がせりて急がせりて 予の時を言へりて十名、既記の如く急がせりて 思ふ、急がせりて急がせりて急がせりて急がせりて			

所感	日 一 十 月 九	曜 金	時 事
	豫 記 天気 晴 暖寒		
予の著る少の時を述べて既記の如く信守と 上島十町中より高松路へ二日田中へ下りて十 名の川へ一宿を旅立ぬ陸軍一山のしが上十名 中七のほろりし一、急がせりて十町中へ極 頃、昔不文直人女を於て心々出りて有向と云ふ 此内題、予、おのれを言へりてサトシ、急がせりて 直其宿、半宿を其のこゝ迄御、既記の如く 是は言向、急がせりて一町中より高松路へ急がせりて 他七町中より高松路へ急がせりて急がせりて 予の時を言へりて十名、既記の如く急がせりて 思ふ、急がせりて急がせりて急がせりて急がせりて			

二百二十日 ●新月 前零時五十三分

九月二十日

所感	九月二十日							曜	土	時事
	豫							天	晴	
	記							寒		
<p>此書より尺、中々中央長多し、先刻不介に、 事、四初外、若、物物、 可、科、望、白、ら、 大介、 予、 不、 十、 大、</p>										

木察

所感	九月三十日							曜	日	時事
	豫							天	晴	
	記							寒		
<p>久、 木、 大、 予、 不、 十、 大、</p>										

時事

金

九月十八日

所感

天候 晴

雨

人ノ才地多ク是レリ
リニ及ズル者ハ
信也ノ差ニ及ズル者ハ
有基ヲ有セズル者ハ
ト云フ也 故テ
知ガズル者ハ
上ニ不在也 故テ
必ズ其ノ公ニ
所ニ在リテ
之ヲ
之ヲ
之ヲ
之ヲ
之ヲ

此の年迄に東京下と云ふ川ノ一帯に於て稲妻山ノ一帯を
テシテ其ノ故郷ニテ州界ニ在リテ其ノ故郷ニテ稲妻山ノ一帯
リニ及ズル者ハ其ノ才地多ク是レリ
信也ノ差ニ及ズル者ハ其ノ才地多ク是レリ
有基ヲ有セズル者ハ其ノ才地多ク是レリ
ト云フ也 故テ其ノ才地多ク是レリ
知ガズル者ハ其ノ才地多ク是レリ
上ニ不在也 故テ其ノ才地多ク是レリ
必ズ其ノ公ニ其ノ才地多ク是レリ
所ニ在リテ其ノ才地多ク是レリ
之ヲ其ノ才地多ク是レリ
之ヲ其ノ才地多ク是レリ
之ヲ其ノ才地多ク是レリ
之ヲ其ノ才地多ク是レリ
之ヲ其ノ才地多ク是レリ

此の年迄に東京下と云ふ川ノ一帯に於て稲妻山ノ一帯を

時事

土

九月十九日

所感

天候 雨

雨

書方ノ多ク是レリ
人ノ才地多ク是レリ
信也ノ差ニ及ズル者ハ
有基ヲ有セズル者ハ
ト云フ也 故テ
知ガズル者ハ
上ニ不在也 故テ
必ズ其ノ公ニ
所ニ在リテ
之ヲ
之ヲ
之ヲ
之ヲ
之ヲ

此の年迄に東京下と云ふ川ノ一帯に於て稲妻山ノ一帯を
テシテ其ノ故郷ニテ州界ニ在リテ其ノ故郷ニテ稲妻山ノ一帯
リニ及ズル者ハ其ノ才地多ク是レリ
信也ノ差ニ及ズル者ハ其ノ才地多ク是レリ
有基ヲ有セズル者ハ其ノ才地多ク是レリ
ト云フ也 故テ其ノ才地多ク是レリ
知ガズル者ハ其ノ才地多ク是レリ
上ニ不在也 故テ其ノ才地多ク是レリ
必ズ其ノ公ニ其ノ才地多ク是レリ
所ニ在リテ其ノ才地多ク是レリ
之ヲ其ノ才地多ク是レリ
之ヲ其ノ才地多ク是レリ
之ヲ其ノ才地多ク是レリ
之ヲ其ノ才地多ク是レリ
之ヲ其ノ才地多ク是レリ

此の年迄に東京下と云ふ川ノ一帯に於て稲妻山ノ一帯を

天気 晴

暖

豫記

昨日の夜、
...
...

素直に代りて各の船中...
...
...

所感

...

天気 晴

暖

豫記

昨日の夜、
...
...

定例の通り...
...
...

被岸

時事

火曜

九月二十二日

所感

天気 雨

寒

寒

控事局へつづて
 又もう一度、往來の大
 意をどうにか不逞派
 トヤルというのを作り
 非の腰こしつゝの改
 務令を如何にするか
 年々松ノ御堂にて
 控令の如何にするか
 一五重をどうするか

是非をどうにか
 松ノ御堂にて
 一五重をどうするか
 是非をどうにか
 松ノ御堂にて
 一五重をどうするか

時事

水曜

九月二十三日

所感

天気 晴

寒

物々秋気だか
 レリ
 白話から
 一五重をどうするか

是非をどうにか
 松ノ御堂にて
 一五重をどうするか
 是非をどうにか
 松ノ御堂にて
 一五重をどうするか

時事

水風

九月三十日

所感

雨天 風 晴

昨日は秋の雨。一雨の後の下霜中霜の多い日は
思ひに秋の心も少しは在る。雨も多し。秋の心も
秋の心も在る。秋の心も在る。秋の心も在る。

物に
つた

秋の心も在る。秋の心も在る。秋の心も在る。

つた

秋の心も在る。秋の心も在る。秋の心も在る。

つた

秋の心も在る。秋の心も在る。秋の心も在る。

つた

秋の心も在る。秋の心も在る。秋の心も在る。

つた

秋の心も在る。秋の心も在る。秋の心も在る。

つた

秋の心も在る。秋の心も在る。秋の心も在る。

つた

秋の心も在る。秋の心も在る。秋の心も在る。

つた

秋の心も在る。秋の心も在る。秋の心も在る。



ノスモスな萌るや頭打つ花かく
芽付

重
規
記
事

Vertical columns of handwritten Japanese text in a cursive style, filling the lower half of the page.

天氣 晴
暖寒 記

分る少くはさうさうの如く吟中中央各都府の
中山下河也居た久切下ん年と強也之令と尋常一
をりつろエ折たせうとこいひつりてはく見取せり
分こゆれまゝの外状はつる中、正午正午時定
重なりぬるゆへに吟中一評定又
既分歌言強りて力なり
...

天氣 晴
暖寒 記

...

時事 日 六 月 十 曜 火

所 感
天 氣
雨 水 晴
暖 寒
謙 記

本朝建休ハ有ニ由也... 此ノ中少ク強カク... 爲ニ強弱ニシテ... 夫レハ希世ノ人ニシテ... 通達ニシテ... 合フドシニシテ... 三ノ節ヲ... 徳ホク...

時事 日 五 月 十 曜 月

所 感
天 氣
晴
暖 寒
謙 記

此ノ中少ク強カク... 爲ニ強弱ニシテ... 夫レハ希世ノ人ニシテ... 通達ニシテ... 合フドシニシテ... 三ノ節ヲ... 徳ホク...

ノ科編

所感	日 一 月 十 月 十				曜日	時事
					豫	記
<p> 此の近派... 此の近派... 此の近派... 此の近派... 此の近派... 此の近派... 此の近派... </p>						

所感	日 二 十 月 十				曜日	時事
					豫	記
<p> 此の近派... 此の近派... 此の近派... 此の近派... 此の近派... 此の近派... 此の近派... </p>						

日蓮宗會式

天気 晴 暖寒

豫記

海より志遠長尾
 9月1日ちも天が空
 かいふしこころを涙汁
 多かり 翌日午、持参
 力依りて
 今も大下差気候なり
 十名下野の区立る
 7かちなり

昨夜宿舎不便りえりて、
 有りて、
 市近外地から中野、仰り何れ、向、向、
 今、今、7中野、格、格、
 何、何、
 此、此、
 正、正、

天気 晴 暖寒

豫記

定例、定例、
 訪問、美重、
 三、三、
 此、此、
 知、知、
 日、日、
 日、日、

日出 五時四十七分
 日没 五時六分

神宮寮 上弦 前七時五十八分

時事 宮内ノ季例

氣天 曇雨

暖寒

豫記

日七十月十 曜土

所 庭

アスハ 掃白えん 平定

今日ハ可ノハ季ノ例ニシテ雨ガ降リ
其ノ中ニ於テ是ノ如ク
ハ経ル
此ノ一日ニ於テ是ノ如クハ
ナク内儀ニテ掃除ス
今日ハ一日ニテ中ノ由來ノ儀
ハ掃除ス
ハ不吉信留儀ニシテ
夜急ガ有リテ是ノ如クハ
ノサカハヤキ子ニシテ
初ハウニシト一合ケハ
約一合ニ由ル

了百廿一

時事

曜日

日八十月十

所 庭

氣天 曇

暖寒

豫記

...

夫の近來儀也
此ノ一日ニ於テ是ノ如クハ
一人ニ由ル
是ノ重儀ニシテ是ノ如クハ
梅草ガ有リテ是ノ如クハ
今ノ下ノ日カ
砂山ノ如クハ是ノ如クハ
今日ハ一日ニ於テ是ノ如クハ
今日ハ一日ニ於テ是ノ如クハ
今日ハ一日ニ於テ是ノ如クハ
今日ハ一日ニ於テ是ノ如クハ

所感	日九十月十	曜月	時事
	氣天 晴 豫 記		
カウ米のりうが 心りそつメ九の年改 此迄の守つ指トヒ心 一神終見り地々心 瑞々作らせう りん 今このま中其他駄句 駄句々々 今このま中其の延入俗觀言經の心也の老若一人 此迄迄の又此の中アノ指の指り見りう大志わん 其の心んてえさあかるが丁念ハハ分竟否否并着 不取表一以中世合之論もも主任ト始スドらセ打 解ケテ始とる無レヤカる之始り己ん心也一ヨケナソ 所り見知と十時に着るる此の白フツの五ノ方之留地有 者一ツ年並名之指有押り取る事ナリ所一國縁者故為 事之切り包らるる区中一有指あり己ん心也一は心 事之此の地ら唐指か少ナリ此の指(心)か心ん 小ノ一わり己ん心也事之此の事之事之事之事之事之 事之此の事之此の事之此の事之此の事之此の事之此の事之			

所感	日十二月十	曜火	時事
	氣天 晴 豫 記		
大前近林ハ四ノ分奉う州并平ノ事也一人一人 是迄了りし事ノ之氣正午名名心着 祇定る一 宅治とす皆と備定たり了り中電治又んハ心 人下心在んか之の事から子々ヤイラていノ事 所り見んてえさあかるが丁念ハハ分竟否否并着 二十分指事ノ半明火吹着 其の心んてえさあかるが 子帰宅、所一牛ラ世也今ハ此迄了り了り 与、年肉一ツ、心んてえさあかるが丁念ハハ分竟否否并着			

土用

時事

水櫃

十月二十一日

所感

晴
陰記

此よりいへ、今日午
元強し強し長風
ふり降りぬ、市也上
口吹来れり、今日
トトス

又此は強風と申事多し、故に昨夜所来り由
限りたり、所来り、今日トトス
正午、市也上、市也上、市也上、市也上、市也上
故に今日、市也上、市也上、市也上、市也上、市也上
此よりいへ、今日午、元強し強し長風
ふり降りぬ、市也上、市也上、市也上、市也上、市也上
口吹来れり、今日トトス

時事

水櫃

十月二十一日

所感

晴
陰記

此よりいへ、今日午
元強し強し長風
ふり降りぬ、市也上
口吹来れり、今日
トトス

此よりいへ、今日午、元強し強し長風
ふり降りぬ、市也上、市也上、市也上、市也上、市也上
口吹来れり、今日トトス
又此は強風と申事多し、故に昨夜所来り由
限りたり、所来り、今日トトス
正午、市也上、市也上、市也上、市也上、市也上
故に今日、市也上、市也上、市也上、市也上、市也上
此よりいへ、今日午、元強し強し長風
ふり降りぬ、市也上、市也上、市也上、市也上、市也上
口吹来れり、今日トトス

後の月 (月中天 夜九時五十六分)

靖國神社祭

所感	日三十二月十		曜金	時事
	天 氣 晴 少 曇		豫 記	寒
<p>大町迄は親吉控うにケハの山頂に張る心算が不在な 寺へ行くとお寺の山と云ふ少い道がキレイな所 喜ノ杖下は存心一息死に思ふ所あり遊んで山平止てお師 匠也ト一言言ふ物う為候丁酉年天正音也一定し 分見分て寺へは入りし其山頂迄はこころがけの所あり と云ふ所ありこころがけを寺へ入りし物もアトがこころ 川迄は物も少くお寺の山頂迄はこころがけの所あり 少く中止し又二時半中一山下を岡平迄登りお師匠と お師匠張るお師匠迄はこころがけの所あり途中は こころがけの所ありお師匠迄はこころがけの所あり お師匠迄はこころがけの所ありお師匠迄はこころがけの所あり</p>				

霜降 前十時十六分 ○ 霜月 後一時五分

所感	日四十二月十		曜土	時事
	天 氣 曇 雨		豫 記	寒
<p>大町迄は親吉控うにケハの山頂に張る心算が不在な 寺へ行くとお寺の山と云ふ少い道がキレイな所 喜ノ杖下は存心一息死に思ふ所あり遊んで山平止てお師 匠也ト一言言ふ物う為候丁酉年天正音也一定し 分見分て寺へは入りし其山頂迄はこころがけの所あり と云ふ所ありこころがけを寺へ入りし物もアトがこころ 川迄は物も少くお寺の山頂迄はこころがけの所あり 少く中止し又二時半中一山下を岡平迄登りお師匠と お師匠張るお師匠迄はこころがけの所あり途中は こころがけの所ありお師匠迄はこころがけの所あり お師匠迄はこころがけの所ありお師匠迄はこころがけの所あり</p>				

所感	日五十二月十	曜日	時事
	晴	晴	晴
	記		
	夕一初至多文 十竹か大竹 三三竹 うまう一竹又石竹へ 三三竹中をまう事 ゆいゆい竹お大竹 今がうまう事 返るまう事		
			とるんがたう地 かうまう一様 ク一竹うまう事 ゆいゆい竹お大竹 今がうまう事 返るまう事
			とるんがたう地 かうまう一様 ク一竹うまう事 ゆいゆい竹お大竹 今がうまう事 返るまう事

所感	日六十二月十	曜日	時事
	晴	晴	晴
	記		
	改大かすう 白一竹かすう 大かすう事 返るまう事		
			とるんがたう地 かうまう一様 ク一竹うまう事 ゆいゆい竹お大竹 今がうまう事 返るまう事
			とるんがたう地 かうまう一様 ク一竹うまう事 ゆいゆい竹お大竹 今がうまう事 返るまう事

時事

土曜

十月三十一日

所感

天氣

曇り

暖寒

豫記

今朝早秋の感じがする。丁度の冷たさがある。昨日の曇りも、
丁度いい。サイと云ふ感じがする。今朝の曇りも、丁度いい。
区々々々

午後の雨は、木内さん、今うらまはぬ。此の雨は、一と云ふ
ゆゑに、さうして、物々たる感じがする。今朝の曇りも、
又、懐かしい感じがする。今朝の曇りも、丁度いい。
今朝の曇りも、丁度いい。今朝の曇りも、丁度いい。
今朝の曇りも、丁度いい。今朝の曇りも、丁度いい。

重要記事



熟柿落ちて紅くだけたる秋日かな

石鼎

所感	日三月一十	曜火	時事
		氣天	晴
		豫	記
	野	ノリ公此ト白ノ 必多クハカク ノリ公此ト白ノ ノリ公此ト白ノ ノリ公此ト白ノ ノリ公此ト白ノ	<p>昔より此れを以て其の情を承知し其の意を察せしむるに 今ノノリ公此ト白ノは其の意を察せしむるに 此れが其の意を察せしむるに 此れが其の意を察せしむるに 此れが其の意を察せしむるに 此れが其の意を察せしむるに</p>

所感	日四月一十	曜水	時事
		氣天	晴
		豫	記
			<p>此れが其の意を察せしむるに 此れが其の意を察せしむるに 此れが其の意を察せしむるに 此れが其の意を察せしむるに 此れが其の意を察せしむるに 此れが其の意を察せしむるに</p>

西の市

時事

臘木

日五月一十

所感

天気晴
豫記

佐友進りの理向の
所へいそし、こころ
る男もゆるやかに
トトし
入る船も、舟も、
以下少部進ぬ人々
ゆき舟も進ぬ、理向
日か、と、ゆき舟も
始り、と、ゆき舟も

佐友進りの理向の
所へいそし、こころ
る男もゆるやかに
トトし
入る船も、舟も、
以下少部進ぬ人々
ゆき舟も進ぬ、理向
日か、と、ゆき舟も
始り、と、ゆき舟も
佐友進りの理向の
所へいそし、こころ
る男もゆるやかに
トトし
入る船も、舟も、
以下少部進ぬ人々
ゆき舟も進ぬ、理向
日か、と、ゆき舟も
始り、と、ゆき舟も

午ニトキナリ工也

時事

臘金

日六月一十

所感

天気曇り
豫記

六時半
七時半
八時半
九時半
十時半
十一時半
十二時半

六時半
七時半
八時半
九時半
十時半
十一時半
十二時半

時 事		雁 月	
所 感	氣天 晴 晴	豫 記	晴 晴
<p>世の運命は勝つ者其の運にありては非ざるなり 情なきん 鳴く 女 丸 あり 由 此の世の中皆小の業は業即ち一掛之徳人の心 夕暮近海を十名夕夕不切り 又うくと侍力の時向が終り 不忠誠十光業即 下り 故に上り下り之の年上地尚然りや下り之の年 十以上分何故院有 燈籠の交れ希大 川境文學博士一塊一御徳ト多ノ演説 名をい一本ト未出也 予等業即ちのり強 下り下り下り下り 何多そん多やう也 是</p>			

時 事		雁 火	
所 感	氣天 晴 晴	豫 記	晴 晴
<p>世の運命は勝つ者其の運にありては非ざるなり 情なきん 鳴く 女 丸 あり 由 此の世の中皆小の業は業即ち一掛之徳人の心 夕暮近海を十名夕夕不切り 又うくと侍力の時向が終り 不忠誠十光業即 下り 故に上り下り之の年上地尚然りや下り之の年 十以上分何故院有 燈籠の交れ希大 川境文學博士一塊一御徳ト多ノ演説 名をい一本ト未出也 予等業即ちのり強 下り下り下り下り 何多そん多やう也 是</p>			

暁金 晴 雨

一人入此也イカガヒ
今夕、サシツキ
今夕、サシツキ
今夕、サシツキ
今夕、サシツキ

云の已途床に... 雲後、量に...
... 今夕、サシツキ
... 今夕、サシツキ
... 今夕、サシツキ

雨
雨
雨
雨
雨

今夕、サシツキ... 雨
... 雨
... 雨
... 雨
... 雨

所感	所感	日 五 十 月 一 十	曜 日	時 事
	豫記	天氣	晴	晴
所感	所感	日 五 十 月 一 十	曜 日	時 事
豫記	天氣	晴	晴	晴
所感	所感	日 五 十 月 一 十	曜 日	時 事
豫記	天氣	晴	晴	晴
所感	所感	日 五 十 月 一 十	曜 日	時 事
豫記	天氣	晴	晴	晴
所感	所感	日 五 十 月 一 十	曜 日	時 事
豫記	天氣	晴	晴	晴

夜中より西止の風をいふ、晴と云ふは、
 雲のたれ、雲のたれ、おりの、おりの、
 かく、かく、おりの、おりの、
 空の中、おりの、おりの、
 口、おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、

所感	所感	日 六 十 月 一 十	曜 月	時 事
	豫記	天氣	晴	晴
所感	所感	日 六 十 月 一 十	曜 月	時 事
豫記	天氣	晴	晴	晴
所感	所感	日 六 十 月 一 十	曜 月	時 事
豫記	天氣	晴	晴	晴
所感	所感	日 六 十 月 一 十	曜 月	時 事
豫記	天氣	晴	晴	晴
所感	所感	日 六 十 月 一 十	曜 月	時 事
豫記	天氣	晴	晴	晴

六月十日、本朝、ハゲヒ、東、一月、
 ハゲヒ、本朝、ハゲヒ、東、一月、
 會見、本朝、ハゲヒ、東、一月、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、
 おりの、おりの、

二の酉 日出 六時十七分 日没 四時三十四分

おりの、おりの、

時事

曜木

日五十二月一十

所感

氣天

晴

晴寒

豫記

昨夜強北陣風急かとい強りたる風なり
 雨雲上日迄と云ふ事男妙と云ふ事十一日也
 中今夜ノ下陣ノヤフケ其奇候也
 午後二時ノ是夜半備合向候始ノ是
 時ノ急立リツケ此の時候
 已半ノ下陣候下候候始ノ是、雨ノノム
 之云々候始ノ是合ナリ云々

時事

曜木

日六十二月一十

所感

氣天

晴

暖寒

豫記

已可近休所候故行テテ種々人時とカテ云々
 急田合弟十時己ニ迄候久 不候如十時年一候
 雪見大弟ノ身ノヤリ所脚ニクシヨリ甘ク候
 之候定其方候テ瓦ノ下候候、後行テテ命不
 況強吟ノ川迄候立候果 三型ノ修候理如立
 之時中場全候之ヲ下候是行合此ノ事、年
 候亦テ此候、了テテテテテテテテテテテテ
 候下ノ定テテテテテテテテテテテテテテテテ
 候事極大候ノ候候候候候候候候候候候候候候
 至團、候々候々候々候々候々候々候々候々候々
 候々候々候々候々候々候々候々候々候々候々候々

時事

曜日

十一月二十九日

所感

氣天

晴

晴寒

豫

記

六月二十日、山田先生、
 龍舟、電車、政務、通
 芝居、及び、
 七月、
 八月、
 九月、
 十月、
 十一月、
 十二月、

時事

曜日

十一月三十日

所感

氣天

晴

晴寒

豫 記

七月、
 八月、
 九月、
 十月、
 十一月、
 十二月、

七月、
 八月、
 九月、
 十月、
 十一月、
 十二月、

康安、
 康平、
 康和、
 康長、
 康元、
 康安、
 康平、
 康和、
 康長、
 康元、

所感

十二月一日

火曜

時事

〔下弦 前十時三十七分

日出 六時三十一分

日没 四時二十八分

天氣 晴少曇 晴寒

豫記

六時十分起床、今日は晴、昨日は九時の物、
 正午時、二時、四時、六時、八時、
 午飯、午後一時、午後三時、午後五時、
 午後七時、午後九時、午後十一時、
 マチキマウナイ、カウキマウ、午飯、
 物、か、か、か、か、か、か、か、か、
 少、少、少、少、少、少、少、少、
 了、了、了、了、了、了、了、了、

落葉、焚く、煙の濃さや霧の中、
風生



重要記事

Blank lined area for important news or journal entries.

次子及會後

時事 臘木 日二月二十

晴 豫記
一 何れと云ふ事
二 何れと云ふ事
三 何れと云ふ事
四 何れと云ふ事
五 何れと云ふ事
六 何れと云ふ事
七 何れと云ふ事
八 何れと云ふ事
九 何れと云ふ事
十 何れと云ふ事

六の二分... 同、個別... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事...

時事 臘木 日三月二十

晴 豫記
一 何れと云ふ事
二 何れと云ふ事
三 何れと云ふ事
四 何れと云ふ事
五 何れと云ふ事
六 何れと云ふ事
七 何れと云ふ事
八 何れと云ふ事
九 何れと云ふ事
十 何れと云ふ事

六の二分... 同、個別... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事... 何れと云ふ事...

時事

金曜

二十月四日

所感

天気 晴
暖寒

豫記

夕立の雨は止まず
二時

六時半迄

この朝からソレソレと待つ十一時日始まる所
望園の研究所へ今日も老若男女の習地を
可成り賑わす所を名刺の類々で賑わす
十二時半迄の放電の儀も有り
不在の古り十二時三十分迄
又三時半迄の儀も有り
午後一時迄の儀も有り
午後二時迄の儀も有り
午後三時迄の儀も有り
午後四時迄の儀も有り
午後五時迄の儀も有り
午後六時迄の儀も有り
午後七時迄の儀も有り
午後八時迄の儀も有り
午後九時迄の儀も有り
午後十時迄の儀も有り
午後十一時迄の儀も有り
午後十二時迄の儀も有り

時事

土曜

二十月五日

所感

天気 晴
暖寒

豫記

六時半迄

この朝からソレソレと待つ十一時日始まる所
望園の研究所へ今日も老若男女の習地を
可成り賑わす所を名刺の類々で賑わす
十二時半迄の放電の儀も有り
不在の古り十二時三十分迄
又三時半迄の儀も有り
午後一時迄の儀も有り
午後二時迄の儀も有り
午後三時迄の儀も有り
午後四時迄の儀も有り
午後五時迄の儀も有り
午後六時迄の儀も有り
午後七時迄の儀も有り
午後八時迄の儀も有り
午後九時迄の儀も有り
午後十時迄の儀も有り
午後十一時迄の儀も有り
午後十二時迄の儀も有り

時事

曜日

二十月六日

所感

天気

晴

豫

寒

記

少くも字に十

友の一人、近う海邊に居る一見、之よりおのりて
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、

時事

曜日

二十月七日

所感

天気

晴

豫

寒

記

少くも字に十

己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、
己の心、石の如く硬く、その情、石の如く硬く、

所感	日 八 月 二 十					臘火	時事
	<p>予は此の頃より一歩も進まずに居り、其の故は何れか知らず。然し此の頃より一歩も退かず、其の故は何れか知らず。此の頃より一歩も進まずに居り、其の故は何れか知らず。然し此の頃より一歩も退かず、其の故は何れか知らず。</p>					氣天	大東亞群一回
						豫	暖寒
					氣天	晴	
					豫	暖寒	記
					<p>此の頃より一歩も進まずに居り、其の故は何れか知らず。然し此の頃より一歩も退かず、其の故は何れか知らず。此の頃より一歩も進まずに居り、其の故は何れか知らず。然し此の頃より一歩も退かず、其の故は何れか知らず。</p>		

所感	日 九 月 二 十					臘木	時事
	<p>此の頃より一歩も進まずに居り、其の故は何れか知らず。然し此の頃より一歩も退かず、其の故は何れか知らず。此の頃より一歩も進まずに居り、其の故は何れか知らず。然し此の頃より一歩も退かず、其の故は何れか知らず。</p>					氣天	晴
						豫	暖寒
					氣天	晴	
					豫	暖寒	記
					<p>此の頃より一歩も進まずに居り、其の故は何れか知らず。然し此の頃より一歩も退かず、其の故は何れか知らず。此の頃より一歩も進まずに居り、其の故は何れか知らず。然し此の頃より一歩も退かず、其の故は何れか知らず。</p>		

時事

曜木

日十月二十

所感

天気 晴

豫記

Handwritten notes in the top section of page 358.

Handwritten text in the main section of page 358, starting with '今頃定て今年此ノ歳ニシテ...'.

時事

曜金

日一月二十

所感

天気 晴

豫記

Handwritten notes in the top section of page 359.

Handwritten text in the main section of page 359, starting with '今頃定て今年此ノ歳ニシテ...'.

所 感	日 四 十 月 二 十		曜 月	時 事
	豫	記	氣天	晴
本日の午前九時、松本に到着。午後一時、ホテルに到着。				
午後二時、ホテルを出発。松本駅まで徒歩。				
午後六時、ホテルに到着。夕食を食す。				
午後八時、ホテルに到着。就寝。				

松子日記 二十日 四月 松子

所 感	日 五 十 月 二 十		曜 火	時 事
	豫	記	氣天	晴
本日の午前九時、松本に到着。午後一時、ホテルに到着。				
午後二時、ホテルを出発。松本駅まで徒歩。				
午後六時、ホテルに到着。夕食を食す。				
午後八時、ホテルに到着。就寝。				

松子日記 二十日 五月 松子

時事

風木

天氣

晴
暖寒

二十月十六日

所感

此のころ、うすき月
の影が、隙を
つとより、つと
せつぱりし
利所へ先を
展びて来るやうなる

然るが、能く来りて、
地の上の、
こころ、
もろくも、
二の、
さう、
と、
人、
ま、
び、

時事

風木

天氣

晴
暖寒

二十月十七日

所感

若くは、
つとより、

幸日也

羽音の如し

鳥樹

手紙、
こころ、
ま、
さう、
一、
さう、
さう、
さう、
さう、
さう、
さう、

時事

臘金

日八十月二十

所感

氣天

曇

豫

曉寒

記

終日の不審いりて多
 七時已に起床しゆき多しこ同いりきり合強し
 毎朝下世りて寒梅、袖一ふり惜ん
 二時已に時既に大寒の多し
 八十七日既に、ひき若病大附、初令強治表更、件
 治不抑強也長より相強し
 与り給果多し事ゆき多し、相強し
 与り、重治不風、行いり強し
 月曜、今、約果多し事ゆき多し、相強し
 初陽、今、約果多し事ゆき多し、相強し
 多し、今、約果多し事ゆき多し、相強し



時事

臘土

日九十月二十

所感

氣天

晴

豫

曉寒

記

七時起床、九時、二時、十時、正午、細強、ゆき多し、相強し
 来り、今、約果多し事ゆき多し、相強し
 金画、長木、約果多し事ゆき多し、相強し
 正午、今、約果多し事ゆき多し、相強し
 走、休強、七時、今、約果多し事ゆき多し、相強し
 八時、今、約果多し事ゆき多し、相強し
 下、今、約果多し事ゆき多し、相強し
 雲、今、約果多し事ゆき多し、相強し
 大風、今、約果多し事ゆき多し、相強し

大正天 晝祭 クリスマス

所感

二十二月十五日

金 曜

時事

天 氣

晴

豫

寒 暖

記

七日 幸近林公園より、夕光が南に輝き、夕陽の光が、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、

所感

二十二月十四日

木 曜

時事

天 氣

雨

豫

寒 暖

記

七日 幸近林公園より、夕光が南に輝き、夕陽の光が、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、
 赤い山頂に照り、山頂の赤い山頂に照り、

所感

日六十二月二十

曜土

時事

氣天 晴 暖寒

豫記

己物ノナイ男ノ
ハ下下ラケカレハス
大い急激ニテ振テ
P.Y
是れに合フ地振ト
ワカヅキフウニ
チーカ止ルンヤ
此處ニ其音ノ内
9. 活々長ク

成り平の日記よりハ十七日迄の事なり
今ハ例年ノ主合ウリノ日ニテ知ラセハ
工業界ノ一幸業成ニ至リテ十の事
学園ノ其ノ見ん大分スルニ人カ
重んじカカラフ事ニカ
是レヲ記録ニシテ其ノ事ニ
殆リ迄
所見多ク且二人ノ事ニ大ニ
回志ケテ今カノ事ナリ
今此ノ事ニハ其ノ事ニ
是レハ成ルニハ其ノ事ニ

所感

日七十二月二十

曜日

時事

氣天 晴 暖寒

豫記

Blank space for weather and forecast notes.

七日迄の日記よりハ十七日迄の事なり
今ハ例年ノ主合ウリノ日ニテ知ラセハ
工業界ノ一幸業成ニ至リテ十の事
学園ノ其ノ見ん大分スルニ人カ
重んじカカラフ事ニカ
是レヲ記録ニシテ其ノ事ニ
殆リ迄
所見多ク且二人ノ事ニ大ニ
回志ケテ今カノ事ナリ
今此ノ事ニハ其ノ事ニ
是レハ成ルニハ其ノ事ニ

時事

曜月

日八十二月二十

所感

晴
時寒

夕ト陰雲うきうき
トケラガキラノカホトカ
夕ト夕ト、市街、何レ
ノ高ト下アトノ
他ト海ノヤイクノ守
リ時、陰細うき
カホトノ喜トト
ニ印ミマアモ
函ノカノノ一入ニ

昨夜、火ノ二対ヤキ、此ノ今、此ノ此ノ此ノ此ノ
今、此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
ワレ、此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
ヤラ、大サワカ、此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
ハ、此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ

此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ

日九十二月二十

時事

曜火

日九十二月二十

所感

晴
時寒

夕ト陰雲、此ノ此ノ
夕ト夕ト、市街、何レ
ノ高ト下アトノ
他ト海ノヤイクノ守
リ時、陰細うき
カホトノ喜トト
ニ印ミマアモ
函ノカノノ一入ニ

昨夜、火ノ二対ヤキ、此ノ今、此ノ此ノ此ノ此ノ
今、此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
ワレ、此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
ヤラ、大サワカ、此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
ハ、此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ
此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ

此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ此ノ

長年かかるとも、丁の事、此後、こす、ト、神、田、の、事、し、ア、ト、思、ふ、
長年の事、何、ア、強、こ、す、可、か、地、ノ、也、一、也、ス、テ、強、さ、さ、す、年、々、か、
知、る、は、ア、ト、ル、

この頃、此、知、何、に、行、来、地、合、テ、代、表、と、す、合、成、ノ、此、ノ、本、形、ノ、引、取、を、由、
如、ク、と、知、ル、也、ス、。 昔、何、種、知、り、テ、二、合、テ、シ、ク、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
行、ノ、カ、サ、シ、計、画、と、シ、テ、勿、か、り、
如、ク、と、知、ル、事、も、加、テ、思、ふ、人、ノ、思、テ、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
白、し、テ、十、五、年、五、十、五、年、ノ、事、ト、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
コ、ト、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
ノ、事、ト、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
一、身、也、一、身、ノ、事、ト、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
高、原、と、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、

この頃、この頃、此、後、ノ、地、況、と、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
高、原、と、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
ノ、事、ト、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
コ、ト、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、

此、頃、一、方、ノ、地、況、一、也、ノ、強、ク、入、ル、也、其、事、ノ、事、ト、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
止、テ、大、合、比、計、画、と、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
ノ、事、ト、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、
高、原、人、ノ、口、頭、控、極、所、合、則、合、是、八、木、下、中、指、テ、在、証、人、ノ、口、頭、控、極、所、
此、頃、合、テ、自、ら、自、ら、知、り、
高、原、人、ノ、口、頭、控、極、所、合、則、合、是、八、木、下、中、指、テ、在、証、人、ノ、口、頭、控、極、所、
一、也、是、ノ、事、ト、シ、テ、自、ら、自、ら、知、り、

Blank lined page with a blue border.

Handwritten text in Japanese, written vertically from right to left. The text is somewhat faded and difficult to read, but appears to be a list or a series of notes. The characters are in a cursive style.

知人名簿

住	所	電	氏	名	關
話	話	名	係		
中 山形縣南置賜郡玉庭町大字玉庭北之七番地	玉庭町字松尾		何 原	敬 巳	關 係 中
			大正十五年一月丁公宅		
			何部 三又		
					右 叔父

住	所	電	氏	名	關
話	話	話	名	係	

度量衡表

衡		量			積		面				度			
寶石類	ト	キログラム	グラム	ミリグラム	立方メートル	土	平	海	キロメートル	メ	デ	センチ	ミリ	メートル
五三三三三三	二六六六六七	二六六六六七	二六六六六七	二六六六六七	三三三三三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三
五三三三三三	二六六六六七	二六六六六七	二六六六六七	二六六六六七	三三三三三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三	一〇〇八三三
英トン	ポンド	トン	キログラム	キログラム	メートル	尺	寸	分	厘	寸	分	厘	毫	分
一〇一六〇六	一六〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

量換算法

● 尺を米に直すには三倍し
 ● 米を尺に直すには一割加
 ● 米を斤に直すには三割加
 ● 斤を米に直すには二割加
 ● 斤を斤に直すには五分加
 ● 斤を石に直すには二割引
 ● 石を斤に直すには五割引
 ● 石を石に直すには四割引
 ● 石を石に直すには五分割
 ● 石を石に直すには五分割
 ● 石を石に直すには五分割

昭和十七年出納表

月	収入額	支出額	残額
1	,	,	,
2	,	,	,
3	,	,	,
4	,	,	,
5	,	,	,
6	,	,	,
7	,	,	,
8	,	,	,
9	,	,	,
10	,	,	,
11	,	,	,
12	,	,	,
計	,	,	,
摘要	親善會公費 17-5月-18-4月 3— 盒裁 17-10~17-12月 5— 口風空失会 17-11-8月→年分 1—		